

第15回
地球環境問題と人類の存続に関するアンケート

調査報告書

平成18年 9月

財団法人 旭硝子財団

目次

はじめに	1
I. 調査の概要	2
II. 調査結果の概要	3
III. 調査結果	
I. 継続調査項目	
1. 人類存続の危機に対する認識 環境危機時計	6
2. アジェンダ21の進捗状況	9
II. 本年度焦点をあてた項目	
3. 取り組むべき地球環境問題 グローバルな環境問題	12
3-1. 地球温暖化問題	12
3-2. 貧困問題	14
3-3. エネルギー問題	15
3-4. 生態系・生物多様性の保全・再生問題	18
3-5. 人口問題	20
4. 取り組むべき地球環境問題 ローカルな環境問題	21
4-1. 酸性雨・大気汚染問題(先進アジア)	21
4-2. 貧困問題(その他アジア、中南米、アフリカ)	22
4-3. 海洋および淡水資源問題(オセアニア)	23
4-4. 森林減少問題(中南米)	23
4-5. 砂漠化・土壌劣化問題(アフリカ、中東)	24
4-6. 廃棄物問題(日本、西欧、先進アジア、その他アジア、アフリカ、東欧・旧ソ連、中東)	24
4-7. 都市・交通問題(日本、北米、西欧、先進アジア、東欧・旧ソ連、中東)	26
4-8. 生態系・生物多様性の保全・再生問題(西欧、中南米、オセアニア、東欧・旧ソ連)	27
IV. 自由記述	29
V. データブック	35
VI. 調査票	43

はじめに

本報告書は、当財団が平成4年より調査を実施している「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」の本年度の調査結果をまとめたものです。

リオデジャネイロでの『地球サミット』からは既に14年、『ヨハネスブルグ・サミット』からも4年が経過しましたが、地球環境問題への取り組みの重要性、緊急性はますます増加する一方です。引き続き、地球温暖化問題が大きな関心事で、昨年2月に京都議定書が発効したことを受け、その達成に向け京都メカニズムの実施、とりわけCDMに注目が集まっています。世界各国は、気候変動が深刻な脅威であり、全ての国による対応が不可欠であるとの認識の下、京都議定書の目標達成に全力を挙げる一方で、2013年以降の将来についても話し合いを始めています。

15回目を迎えた本年の調査も、世界各国の政府や民間の環境問題に携わる有識者の方々が、様々な環境問題への取り組み状況についてどのような認識を持っているかを探り、その認識が、世界各地でどのような特徴を示すかを明らかにすることを主たる目的としました。今回の設問は、従来から継続して調査を実施してきた「環境危機時計」、「アジェンダ21」に加えて、「取り組むべき環境問題」について、昨年度明らかになったグローバルならびにローカルな優先課題をさらに掘り下げ問題の焦点を明らかにすることに努めました。

世界各国の政府や民間の環境問題に関心が高い有識者の皆様から、今回も熱意溢れる回答を数多く頂戴いたしました。お忙しい中をご回答いただきました皆様に、心からお礼申し上げます。また、昨年に引き続き、調査設計の段階から結果の分析に至るまで、多くの貴重なご助言をいただきました地球環境戦略研究機関理事長の森島昭夫先生に、深く感謝の意を表す次第でございます。

最後になりましたが、今後このアンケート調査をさらに充実したものにしていいため、各方面の方々のご助言、ご指導を切に期待してやみません。

平成18年9月

財団法人 旭硝子財団

I. 調査の概要

調査時期 : 平成18年4月から6月

調査対象 : 世界各国の政府・自治体、非政府組織、大学・研究機関、企業等で環境問題に携わる有識者 (UNEP / UNCSD及び旭硝子財団保有データベースに基づく)

送付数 : 3,989

回収数 : 655

回収率 : 16.4%

属性別の回収結果

【地域】	回収数	構成比 (%)
先進地域	463	70.7
日本	307	46.9
北米	49	7.5
西欧	70	10.7
先進アジア (韓、香、台、シ)	37	5.6
途上地域	113	17.2
その他アジア (日本を除く)	53	8.1
中南米	23	3.5
アフリカ	37	5.6
その他地域	79	12.1
オセアニア	22	3.4
東欧・旧ソ連	36	5.5
中東	21	3.2
(海外合計)	348	53.1)
合計	655	100.0

【性別】	回収数	構成比 (%)
男性	549	83.8
女性	94	14.4
不明	12	1.8
合計	655	100.0

【勤務先】	回収数	構成比 (%)
中央政府	76	11.5
地方自治体	94	14.4
大学、研究機関	125	18.3
非政府系組織	113	15.3
企業	122	16.6
その他	109	16.2
不明	16	7.8
合計	655	100.0

* 本報告書では、分析の百分率のベースは特に説明がない限り回収数655を使用しており、百分率の数値は小数点第1位もしくは第2位を四捨五入してある。

* 日本はアジアに含まれていない。また、韓国・香港・台湾・シンガポールを先進アジア地域とし、その他アジアと区別した。

* 日本、北米、西欧、先進アジアを「先進地域」、その他アジア、中南米、アフリカを「途上地域」、これらを除く地域を「その他」とした。

* 回答延件数ベース：回収票数ではなく、その質問に対してなされた回答の延件数を基数とする。図中の[N=]内の数字は有効回答数を表示した。

II. 調査結果の概要

1. 継続調査項目

人類存続の危機に関する認識

環境危機時計

- ・ 全回答者の平均の環境危機時刻は、アジアとオセアニアを除き、各地域で時計の針が大きく進んだことから、昨年に比べて時計の針が12分進み9時17分となり、これまでで最も針が進んだ危機意識の高い結果となった。
- ・ 日本の危機時刻は、針が昨年に比べ8分進み、9時15分となった。
- ・ 海外合計は、針が昨年に比べ15分進み、9時19分となった。
- ・ **環境危機時刻の記入にあたり考慮した項目**：考慮項目のトップは、日本も海外合計も「地球温暖化」が最も高く、次いで「森林破壊・砂漠化・生物多様性の減少」「水の枯渇・食糧問題」の順であった。

「アジェンダ21」の進捗状況

本年も「アジェンダ21」行動計画の中の10項目について調査をした。

- ・ 今年も“進展した”とする割合が最も高かったのは「環境教育の推進」、逆にその割合が最も低かったのは「ライフスタイルの変更」であった。
- ・ “進展した”との回答が50%を超えた項目は、日本、海外合計とも昨年と同じく「環境教育の推進」「自治体や市民の参画」「産業界の環境対策」「科学・技術の貢献」「リサイクルシステムの構築」であった。
- ・ 今年も「森林資源保護対策」「地球温暖化防止対策」「生物多様性の保全」「人口・貧困問題」「ライフスタイルの変更」の5項目は“進展していない”が“進展した”を上回った。“進展していない”が50%を超えたのは、今年も「ライフスタイルの変更」だけであった。

2. 本年度焦点を当てた項目

取り組むべき地球環境問題

昨年度、「取り組むべき地球環境問題」について質問し、上げられたグローバルな優先課題およびローカルな優先課題について、今年度はさらに問題点を掘り下げた。

取り組むべき地球環境問題 - グローバルな環境問題

地球温暖化問題

- ・ 日本、海外とも「地球温暖化は重要かつ緊急な環境問題でありすぐ対策を講じる必要がある」との回答が70%以上を占めた。80%以上の高い回答者比率を示した地域は、先進アジア、中東、西欧、中南米であった。

貧困問題

- ・ グローバルな課題としての貧困問題については、海外合計では「現状より大分改善できる」との回答が50%弱であったのに対し、日本は「現状より大分改善できる」との回答は14%と低く、逆に「現状より悪化する」が52%で、見方が分かれた。

エネルギー問題

- ・ 最も重要なエネルギー問題については、先進地域は、「エネルギーの多消費」との回答が48%で最も多く、特に北米は回答の3/4を占めた。ついで「エネルギー源の構成比率の偏り」で

あった。これに対し、途上地域は、「利便性の高いエネルギーのコストが高い」「再生可能なエネルギーの利用が不十分」との回答がそれぞれ20%で最も多かった。

生態系・生物多様性の保全・再生問題

- ・生態系・生物多様性の保全・再生問題でグローバルに取り組むべき課題として、日本、海外合計とも回答の多い順に「生物生息地の減少」「人間活動による汚染物質の悪影響」「生物種の減少」であった。「生物生息地の減少」と回答した比率は、東欧・旧ソ連を除くいずれの地域でも最も高く、先進アジア、オセアニア、北米、日本では80%を超えた。東欧・旧ソ連では「人間活動による汚染物質の悪影響」とする回答が最も高く58%であった。

人口問題

- ・人口問題については「発展途上国の爆発的増加」が問題とする回答が海外合計で70%以上、日本は90%以上の高率であった。他方、「将来的に人口増加は止まると予想されるので、特に問題ではない」との回答が多かったのは、先進アジアの40%、東欧・旧ソ連も20%強、中東、西欧が14%であった。

取り組むべき地球環境問題 - ローカルな環境問題

酸性雨・大気汚染問題（先進アジア）

- ・酸性雨と大気汚染の両方が問題であるとの回答が90%近くで圧倒的であった。酸性雨の最も大きな被害については、「森林の破壊、森林生態系への影響」との回答が70%で最も多く、ついで「人体への直接被害」との回答が49%であった。

貧困問題（その他アジア、中南米、アフリカ）

- ・その他アジア、中南米、アフリカのいずれも、貧困問題が「現状より大分改善できる」とする回答と「現状より悪化する」との回答が40%前後で拮抗した。

海洋および淡水資源問題（オセアニア）

- ・海洋および淡水資源問題の課題については、回答者の60%以上が「淡水資源の劣化、枯渇」と「漁業資源の減少」を上げた。

森林減少問題（中南米）

- ・森林減少問題の影響については、「土壌侵食、土砂災害、河川の氾濫」との回答が75%と圧倒的であった。

砂漠化・土壌劣化問題（アフリカ、中東）

- ・砂漠化・土壌劣化問題の課題については、「水源の減少、劣化」との回答が最も多く、アフリカでは57%と圧倒的であったが、中東はこれが33%で、「灌漑用水の塩水化、土地の塩化」とする回答も24%あり、地域による違いが見られた。

廃棄物問題（日本、西欧、先進アジア、その他アジア、アフリカ、東欧・旧ソ連、中東）

- ・廃棄物問題の課題について、ほとんどの地域は「生活廃棄物」および「産業廃棄物」を上げた。「産業廃棄物」との回答の割合が高いのは日本と先進アジアであった。先進アジアと西欧は「有毒・有害物質」とする回答も54%、45%と高かった。

都市・交通問題（日本、北米、西欧、先進アジア、東欧・旧ソ連、中東）

- ・都市交通問題については、いずれの地域も「自動車の過密による渋滞・交通障害」が課題であるとする回答が高かったが、その他の項目では、先進アジア、西欧、日本が「輸送車両などによる公害問題」との回答が多かったのに対し、北米、中東、東欧・旧ソ連は「公共交通・輸送インフラの欠如・整備不足」との回答が多かった。
- ・都市環境問題については、一番の課題であると捉えている事項に地域差があった。西欧、北米は「都市のスプロール化」、東欧・旧ソ連は「緑や自然空間の消失」、先進アジアは「大気汚染および騒音」、中東、日本は「廃棄物の増大」が上げられた。ただ、どの地域も、回答が分散し、いずれの項目についても課題であると捉えている。

生態系・生物多様性の保全・再生問題（西欧、中南米、オセアニア、東欧・旧ソ連）

- ・生態系・生物多様性の保全・再生問題の課題について回答が最も多かったのは、中南米と西欧は「生物生息地の減少」、オセアニアは「外来種の混入・侵入による従来生態系の破壊」、東欧・旧ソ連は「人間活動による汚染物質の悪影響」であった。

III. 調査結果

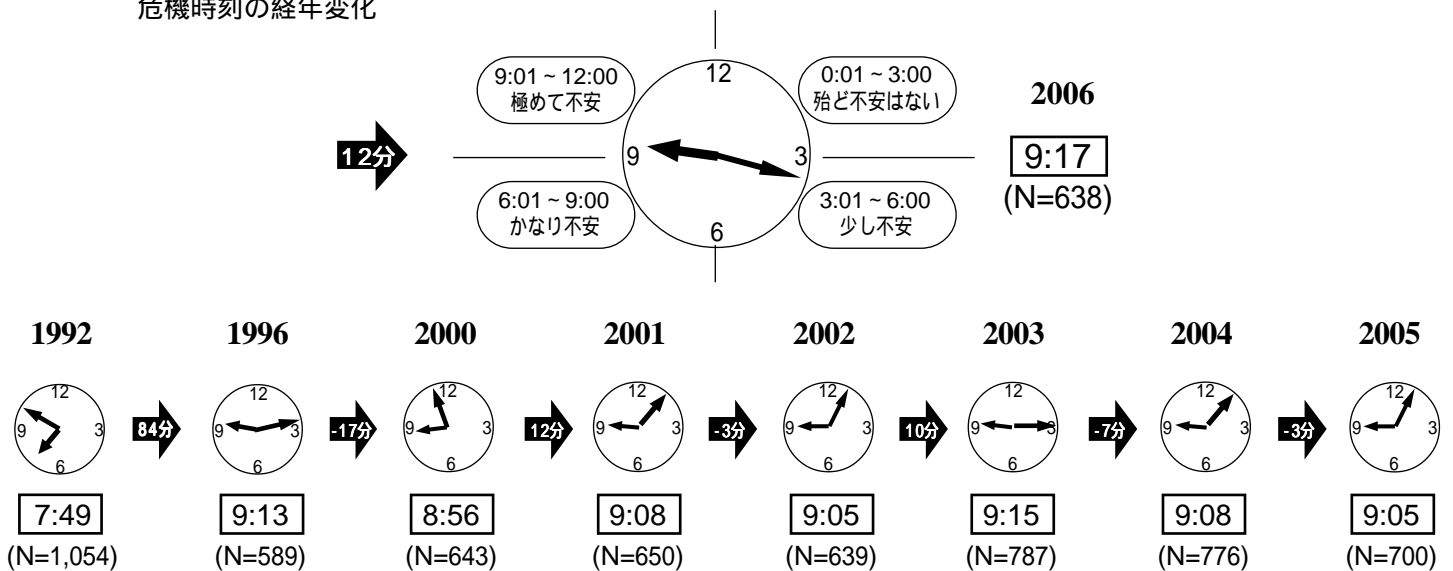
I. 継続調査項目

1. 人類存続の危機に対する認識 環境危機時計（調査票：問1）

1-1. 環境危機時刻（調査票：問1-1）

問1-1. あなたは現在の地球環境の悪化にともなう人類存続の危機の程度をどのように感じていますか？ 時計の針に例えて0：01～12：00の範囲で 時 分と教えてください。

危機時刻の経年変化



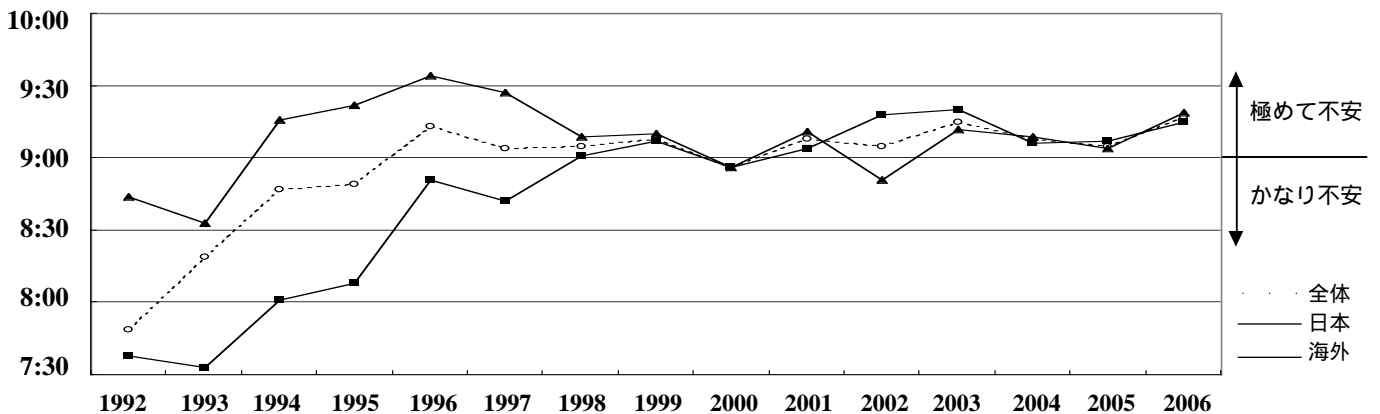
	'06サンプル数	危機時刻の推移			危機時刻の進行(分)	
		'96	'05	'06	'96 '06	'05 '06
全体	[N=638]	9:13	9:05	9:17	+4	+12
日本	[N=301]	8:51	9:07	9:15	+24	+8
北米	[N= 48]	9:30	8:54	9:18	-12	+24
西欧	[N= 68]	9:46	8:43	9:08	-38	+25
アジア	[N= 90]	9:41	9:41	9:17	-24	-24
・先進アジア	[N= 37]	*	9:49	9:32	*	-17
・その他アジア	[N= 53]	*	9:37	9:07	*	-30
中南米	[N= 23]	9:28	9:08	9:31	+3	+23
アフリカ	[N= 35]	9:25	9:03	9:32	+7	+29
オセアニア	[N= 21]	9:43	9:18	9:18	-25	0
東欧・旧ソ連	[N= 35]	9:12	8:26	9:07	-5	+41
中東	[N= 17]	8:30	9:18	10:05	+95	+47
海外合計	[N=337]	9:34	9:04	9:19	-15	+15
男性	[N=537]	9:01	9:05	9:18	+17	+13
女性	[N= 90]	9:58	9:00	9:15	-43	+15
先進地域	[N=454]	*	9:04	9:16	*	+12
途上地域	[N=111]	*	9:20	9:20	*	0
その他の地域	[N= 73]	*	8:49	9:24	*	+35

- ・ 全回答者平均の環境危機時刻は昨年に比べ時計の針が12分進み、9時17分となり、これまでで最も針が進んだ危機意識の高い結果となった。
- ・ 日本の危機時刻は、針が昨年に比べ8分進み、9時15分となった。
- ・ 海外合計は、針が昨年に比べ15分進み、9時19分となった。

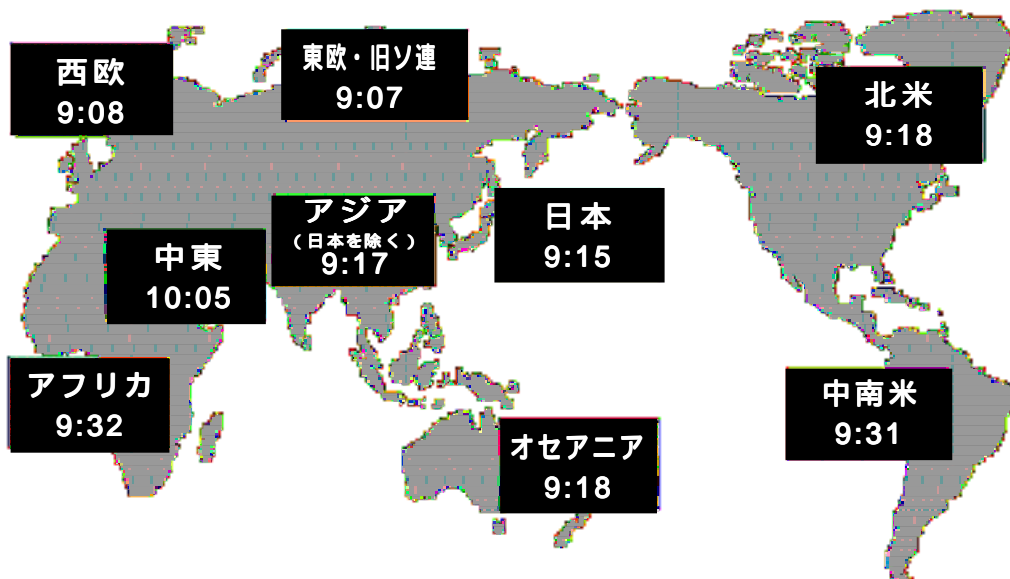
- ・ 昨年時計の針が最も進んでいたアジアが24分戻り9時17分、オセアニアが昨年と同時刻の9時18分となったのを除き、各地域は針が進み、進み具合も中東、東欧・旧ソ連は40分以上、北米、西欧、中南米、アフリカは20から30分程度と、それぞれ大幅であった。
- ・ 男性の危機時刻は昨年より時計の針が13分進み9時18分、女性の危機時刻は昨年より時計の針が15分進み9時15分となり、ともに針が進んだが差は縮まった。

環境危機時刻の推移

	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
全体	7:49	8:19	8:47	8:49	9:13	9:04	9:05	9:08	8:56	9:08	9:05	9:15	9:08	9:05	9:17
日本	7:38	7:33	8:01	8:08	8:51	8:42	9:01	9:07	8:56	9:04	9:18	9:20	9:06	9:07	9:15
海外	8:44	8:33	9:16	9:22	9:34	9:27	9:09	9:10	8:56	9:11	8:51	9:12	9:09	9:04	9:19
海外 日本(分)	66	60	75	74	43	45	8	3	0	7	-27	-8	3	-3	4



各地域の危機時刻



1-2 . 念頭においた項目（調査票：問1-2）

問1-2. あなたは時刻を記入したとき、地球環境のどのような状況を主に念頭において記入しましたか。次の中から念頭においた項目を3つ以内で選んで をつけてください。

2006年における地球環境を考慮した時に念頭においた項目

	先進地域			途上地域			その他			海外合計	先進地域	途上地域	その他地域	全体	
	日本	北米	西欧	先進アジア	その他アジア	中南米	アフリカ	オセアニア	東欧・旧ソ連						中東
	[N=307]	[49]	[70]	[37]	[53]	[23]	[37]	[22]	[36]	[21]	[348]	[463]	[113]	[79]	[655]
地球環境問題全般	29	22	20	27	19	22	30	14	31	24	23	27	23	24	26
地球温暖化	74	65	73	70	52	39	51	77	44	48	60	73	49	54	66
大気汚染、水質汚濁、河川・海洋汚染	23	33	25	43	52	65	35	23	58	52	41	26	49	47	32
水の枯渇・食糧問題	42	61	29	16	50	35	51	50	28	33	40	40	47	35	41
森林破壊・砂漠化・生物多様性の減少	52	45	48	73	50	39	60	55	47	33	51	52	51	46	51
市民のライフスタイル・廃棄物問題	22	18	29	22	33	39	14	14	42	29	27	23	28	30	25
環境問題と経済・貿易活動	19	12	17	27	11	22	14	9	22	19	17	19	14	18	18
人口・貧困・女性の地位問題	16	31	33	14	33	39	35	23	22	24	29	20	35	23	23
その他	5	16	9	5	2	0	5	5	3	0	6	7	3	3	6
不明	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

◎:最もポイントが高い項目 ○:2番目にポイントの高い項目

注)地域別の合計は「3つ選択」なので原則的に300%。但し、「3つ以下」の回答者がいるので、300%に満たない。

- ・ 環境危機時刻の記入にあたり念頭に置いた項目は、日本も海外合計も「地球温暖化」が最も高く、次いで「森林破壊・砂漠化・生物多様性の減少」「水の枯渇・食糧問題」の順であった。
- ・ 先進地域は全体の傾向と同じであったが、途上地域は「森林破壊・砂漠化・生物多様性の減少」「地球温暖化」「大気汚染、水質汚濁、河川・海洋汚染」「水の枯渇・食糧問題」との回答がいずれもほぼ50%あった。その他地域は、回答の多い順に「地球温暖化」「大気汚染、水質汚濁、河川・海洋汚染」「森林破壊・砂漠化・生物多様性の減少」であった。

2. アジェンダ21の進捗状況（調査票：問2）

問2. 1992年に開催された地球サミットで「環境と開発に関する行動計画」として「アジェンダ21」が採択されて13年になります。「アジェンダ21」のうち、次の10項目について、あなたの国での最近1年間の進捗状況をどのように判断しますか。各項目について、スケール上の記号を で囲んでください。

2006年、2001年における「大いに進展した」+「ある程度進展した」の合計% = “進展した”]

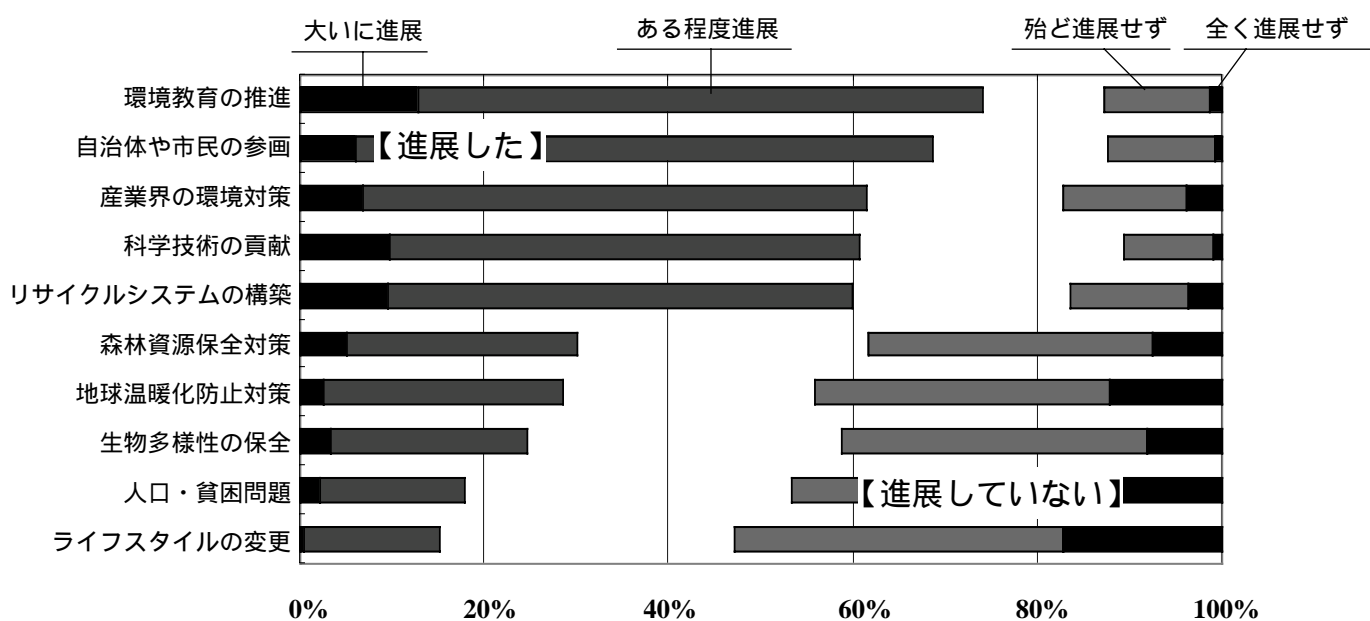
	日本	北米	西欧	アジア	先進アジア	その他アジア	中南米	アフリカ	オセアニア	東欧・旧ソ連	中東	海外合計	全体
2006年	[307]	[49]	[70]	[90]	[37]	[53]	[23]	[37]	[22]	[36]	[21]	[348]	[655]
2001年	[292]	[58]	[84]	[83]	[*]	[*]	[35]	[55]	[30]	[22]	[22]	[392]	[684]
環境教育の推進	70 67	67 74	87 81	74 88	59 *	83 *	70 80	70 84	95 80	83 91	86 77	78 82	74 76
自治体や市民の参画	67 70	86 79	67 80	67 72	62 *	70 *	61 77	59 65	91 90	67 91	81 64	71 76	69 73
産業界の環境対策	66 68	69 62	68 76	52 47	59 *	46 *	57 40	41 40	68 60	50 45	67 45	58 55	62 60
科学技術の貢献	66 69	73 71	67 63	51 51	41 *	57 *	48 17	35 42	59 53	64 45	62 36	58 51	62 59
リサイクルシステムの構築	65 66	76 79	72 75	42 42	59 *	30 *	43 26	27 22	91 73	53 23	67 36	57 51	61 57
森林資源保全対策	12 11	45 48	52 51	41 55	32 *	46 *	35 49	49 65	82 43	31 23	52 45	46 51	30 34
地球温暖化防止対策	29 25	14 21	42 49	23 36	22 *	24 *	13 17	27 22	14 40	44 27	57 14	29 32	29 29
生物多様性の保全	7 11	29 34	42 40	32 55	14 *	44 *	39 57	49 60	64 50	53 45	52 41	41 48	25 33
人口・貧困問題	6 16	18 14	23 24	33 41	19 *	43 *	17 14	35 38	32 33	31 9	57 45	29 28	18 23
ライフスタイルの変更	12 7	10 5	12 12	24 27	32 *	19 *	13 6	16 15	18 33	25 32	38 18	19 17	15 13

(%)

例年と同様にアジェンダ21の行動計画の中から10項目について本年も調査し、“進展した”(「大いに進展した」+「ある程度進展した」とみなす意見が多い順に項目を並べて表にした。

- ・ 今年も“進展した”とする割合が最も高かったのは「環境教育の推進」、逆にその割合が最も低かったのは「ライフスタイルの変更」であった。
- ・ 「生物多様性の保全」が“進展した”とする割合は、海外合計では41%、地域別ではオセアニア、東欧・旧ソ連、中東が50%を超えたのに対し、日本は7%で大きな差があった。
- ・ 「人口・貧困問題」も“進展した”とする割合は、海外合計では29%、地域別では中東、その他アジア、アフリカ、オセアニア、東欧・旧ソ連が30%を超えたのに対し、日本は6%で大きな差があった。

「アジェンダ21」行動計画10項目の進捗状況



- ・ “進展した”との回答が50%を超えた項目は、日本、海外合計とも昨年と同じく「環境教育の推進」「自治体や市民の参画」「産業界の環境対策」「科学・技術の貢献」「リサイクルシステムの構築」であった。
- ・ 今年も「森林資源保護対策」「地球温暖化防止対策」「生物多様性の保全」「人口・貧困問題」「ライフスタイルの変更」の5項目は“進展していない”が“進展した”を上回った。“進展していない”が50%を超えたのは、今年も「ライフスタイルの変更」だけだった。

2006年、2001年における「大いに進展した」+「ある程度進展した」の合計% = 「進展した」の差異比較

	日本	北米	西欧	アジア	・先進アジア	・その他アジア	中南米	アフリカ	オセアニア	東欧・旧ソ連	中東	海外合計	全体
環境教育の推進	+3	-7	+6	-14	*	*	-10	-13	+15	-8	+8	-4	-1
自治体や市民の参画	-3	+6	-13	-5	*	*	-16	-6	+1	-24	+17	-6	-4
産業界の環境対策	-2	+7	-8	+5	*	*	+17	+1	+8	+5	+21	+3	+1
科学技術の貢献	-2	+3	+4	0	*	*	+31	-7	+6	+18	+26	+6	+3
リサイクルシステムの構築	-1	-4	-3	0	*	*	+18	+5	+18	+30	+30	+6	+3
森林資源保全対策	+1	-3	+1	-15	*	*	-14	-17	+38	+8	+7	-5	-3
地球温暖化防止対策	+4	-6	-7	-13	*	*	-4	+5	-26	+17	+44	-3	0
生物多様性の保全	-5	-6	+2	-24	*	*	-18	-11	+14	+7	+11	-7	-8
人口・貧困問題	-10	+5	-1	-8	*	*	+3	-3	-2	+21	+12	+1	-5
ライフスタイルの変更	+5	+5	0	-2	*	*	+7	+2	-15	-7	+20	+2	+3

注) 差異の計算は、小数点1位水準で行っているため、前表に記載した小数点1位四捨五入の値で計算した場合とは異なるものがある。

また、5年前の2001年の結果と比較すると

- ・ 全体では「進展した」とみる割合の高い「環境教育の推進」「自治体や市民の参画」「産業界の環境対策」「科学・技術の貢献」「リサイクルシステムの構築」の上位5項目と、「森林資源保護対策」「地球温暖化防止対策」「生物多様性の保全」「人口・貧困問題」「ライフスタイルの変更」の下位5項目はそれぞれそのまま、入れ替わりはない。
- ・ 個別の地域で見ると、「進展した」とする割合の変動はかなりあるものの、全体では変動は小さく、最も大きかったものでも、「生物多様性の保全」のマイナス8ポイントであった。

II. 本年度焦点をあてた項目

3. 取り組むべき地球環境問題 - グローバルな環境問題 (調査票: 問3)

昨年度質問した「取り組むべき地球環境問題 - グローバルな環境問題」では、グローバルな優先課題として次の5つが挙げられた。

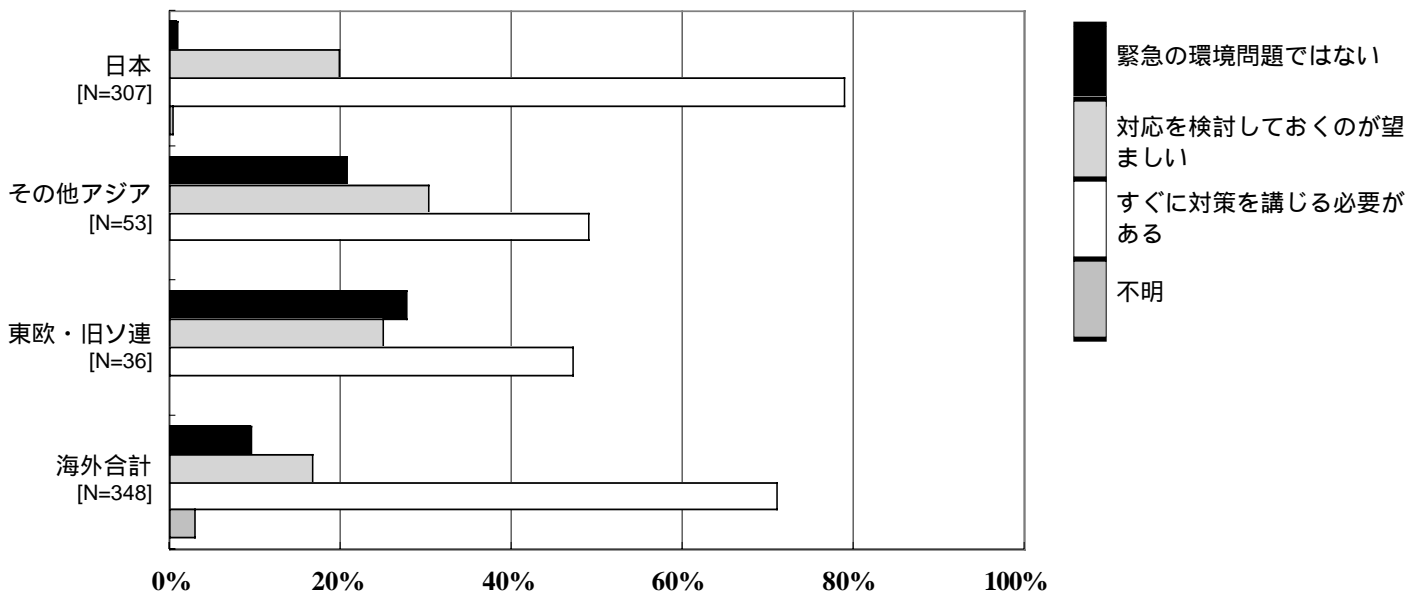
- 「地球温暖化を含む気候変動・変化」
- 「貧困問題」
- 「エネルギー問題」
- 「生態系・生物多様性の保全・再生問題」
- 「人口問題」

今年度はこれら5つの課題について、問題点を明らかにすべく掘り下げた質問をし、以下の結果を得た。

3-1. 地球温暖化問題 (調査票: 問3-1)

問3-1-1. あなたは地球温暖化についてどのように考えますか。次の中からあてはまるものを1つ選んで をつけてください。なお、 を選んだ方は、その理由をその下から選んで をつけてください。

温暖化問題をどのように考えるか



- ・ 日本、海外とも「地球温暖化は重要かつ緊急な環境問題であり、すぐ対策を講じる必要がある」との回答が70%以上を占めた。80%以上の高い回答者比率を示した地域は、先進アジア、中東、西欧、中南米であった。
- ・ 「緊急の環境問題ではない」とする回答の合計が20%を超えたのは、その他アジア、東欧・旧ソ連であった。
- ・ 「緊急の環境問題ではない」とする理由としては、「科学的根拠があいまいである」とする回答が最も多く、次いで「影響が限定的である」が上げられた。なお、東欧・旧ソ連、その他アジア、西欧では「温暖化の方が望ましい」とする回答も3~8%あった(35頁データ参照)。

問3-1-2. 前問で または を選ばれた方におたずねします。地球温暖化はどのような形で影響を与えますか。もっとも重要と思われる項目をそれぞれ2つずつ選んでください。

地球温暖化の影響

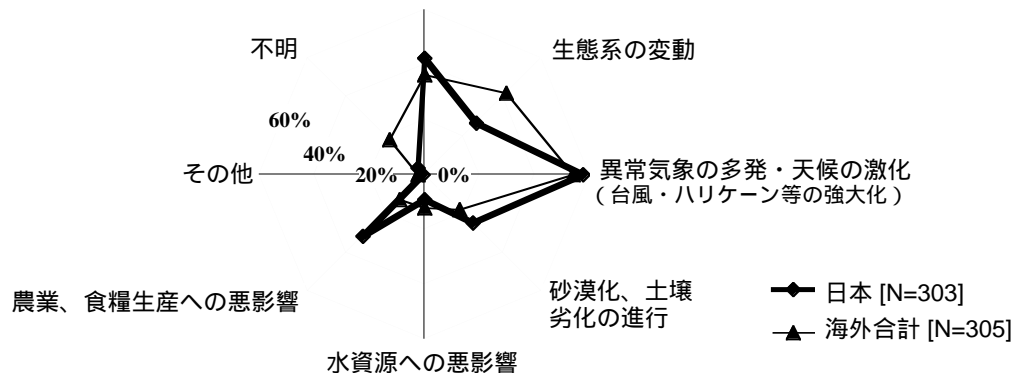
	先進地域		途上地域		その他			海外合計	先進地域	途上地域	その他地域	全体			
	日本	北米	西欧	先進アジア	その他アジア	中南米	アフリカ						オセアニア	東欧・旧ソ連	中東
	[N=303]	[46]	[63]	[37]	[42]	[21]	[30]	[21]	[26]	[19]	[305]	[449]	[93]	[66]	[608]

海面上昇による島嶼国、沿岸部の水没	43	30	37	35	45	29	50	57	27	26	37	40	43	36	40
生態系の変動	27	41	48	51	43	52	30	24	46	53	44	33	41	41	35
異常気象の多発・天候の激化 (台風・ハリケーン)	58	52	56	70	50	71	50	52	69	26	56	58	55	52	57
砂漠化、土壌劣化の進行	25	20	22	27	14	19	10	0	23	21	18	24	14	15	22
水資源への悪影響	9	15	11	5	14	5	13	33	8	16	13	10	12	18	11
農業、食糧生産への悪影響	32	20	13	5	17	5	20	10	19	5	13	26	15	12	23
その他	1	4	2	3	5	0	0	5	4	0	3	1	2	3	2
不明	4	13	16	0	26	14	33	14	35	32	19	6	26	27	12

◎:最もポイントが高い項目 ○:2番目にポイントの高い項目

注)地域別の合計は2つ選択なので原則的に200%。但し、「2つ以下」の回答者がいるので、200%に満たない。

海面上昇による島嶼国、沿岸部の水没



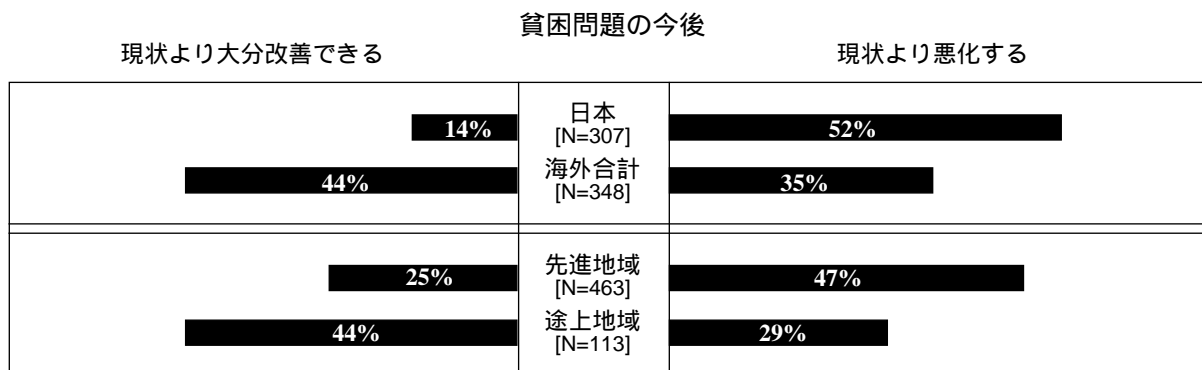
- 地球温暖化によりグローバルに懸念される影響として、日本、海外合計共に50%以上の回答者が「異常気象の多発・天候の激化」をあげ最も多く、ついで「海面上昇による島嶼国、沿岸部の水没」「生態系の変動」が続いた。
- 日本は「農業、食糧生産への悪影響」と回答したものが海外合計の2倍もあり、海外との違いが際立った。

問3-1-3. 温室効果ガス削減を目指す京都議定書が発効しました。温暖化防止に向けた京都議定書の効力をどのように評価しますか。あてはまるものを1つ選んで をつけてください。

- 日本、海外合計いずれも回答者の60%以上が「京都議定書は通過点であり、さらなる各国間協定ができて初めて地球温暖化は防止できる」と答えた。
- 「京都議定書が守られることで温暖化が防止される」との回答は、全体で2%と極めて少なく、京都議定書だけで温暖化防止は難しいとの認識が大勢の中、中東および問3-1-1において地球温暖化を緊急の課題ではないとする回答が20%を越えたその他アジアと東欧・旧ソ連で、その回答がそれぞれ10%程度あるのが目立った(35頁データ参照)。

3-2 . 貧困問題（調査票：問3-2）

問3-2-1. 貧困問題はグローバルにも、それが起きている地域・国においても課題です。あなたは貧困問題の今後をどのように考えますか。あてはまる項目を1つ選んでください。

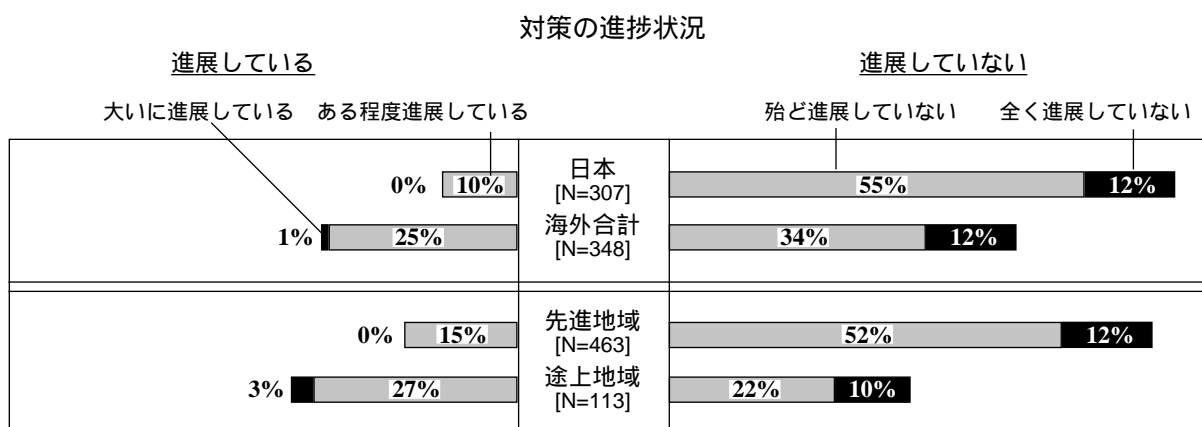


- ・ グローバルな課題としての貧困問題については、海外合計では「現状より大分改善できる」との回答が50%弱であったのに対し、日本は「現状より大分改善できる」との回答は14%と低く、逆に「現状より悪化する」が52%で、見方が分かれた。
- ・ 先進地域と途上地域を比較すると、先進地域では、「現状より悪化する」との回答が47%で、「現状より大分改善できる」の25%を上回ったのに対し、途上地域は、「現状より大分改善できる」との回答が44%で、「現状より悪化する」の29%を上回り、先進地域より楽観的な見通しを持っている。

問3-2-2. 貧困問題をもたらす要因は何と考えますか。あてはまる項目を2つ選んでください。

- ・ 貧困問題をもたらす要因として主に上げられたのは、「人口の増加」「政治的・経済的環境」「南北間格差」であった(35頁データ参照)。

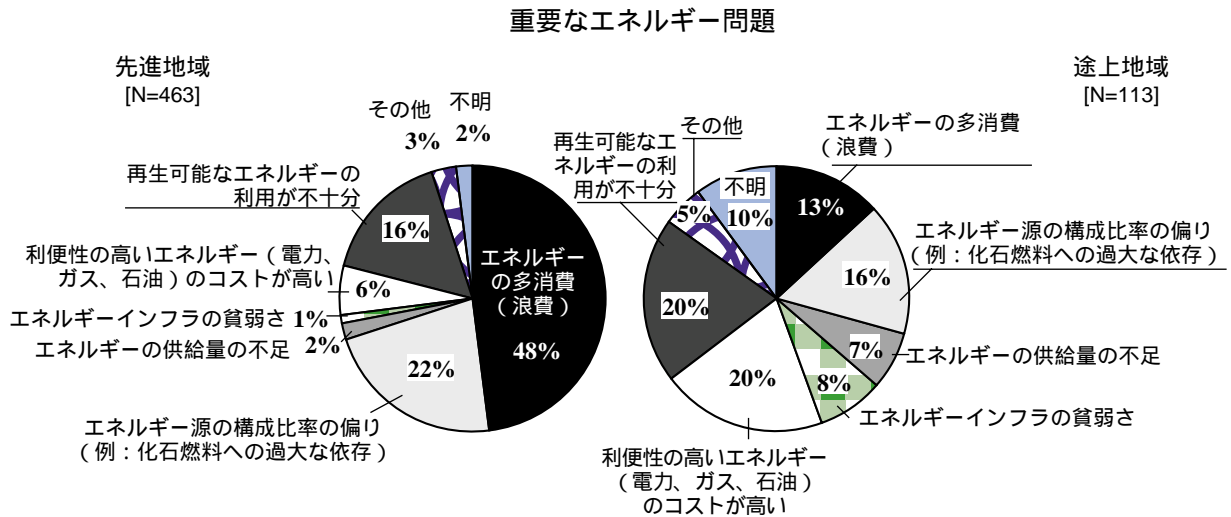
問3-2-3. あなたは貧困問題への対策の進捗状況をどのように捉えていますか。あてはまる項目を1つ選んでください。



- ・ 貧困問題への対策の進捗状況については、「進展していない」と見る割合と「進展している」と見る割合の比率が、海外合計でほぼ2対1であるのに対し、日本では6対1であり、「進展していない」と見る回答者の割合が圧倒的に大きかった。
- ・ 先進地域と途上地域を比較すると、先進地域では「進展していない」とする率が「進展している」の4倍もあるのに対し、途上地域ではそれぞれ30%で拮抗していた。なお、途上地域の中でもその他アジアは、「進展している」とする回答が「進展していない」の約2倍あり、「進展していない」との回答が「進展している」を上回った、中南米、アフリカと対照的である。

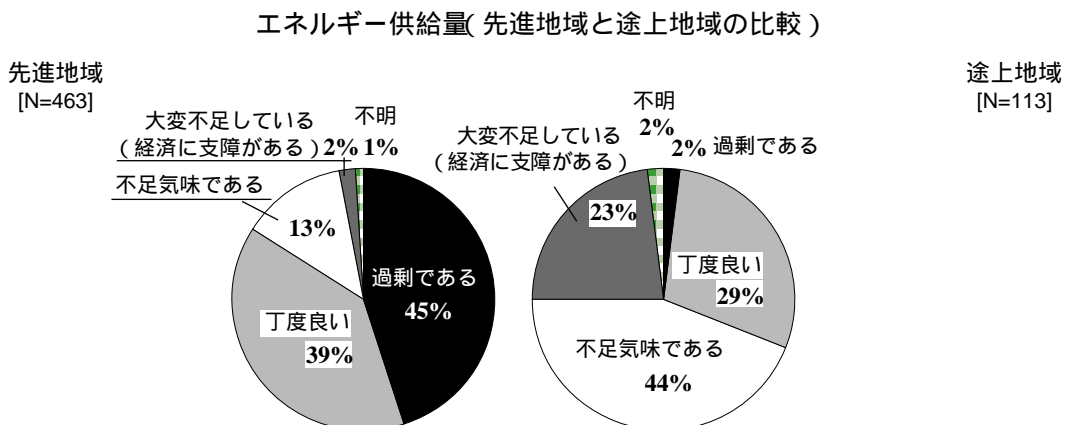
3-3 . エネルギー問題 (調査票：問3-3)

問3-3-1. あなたの国における最も重要なエネルギー問題は何ですか。次の中からあてはまると思うものを1つ選んでをつけてください。



- ・ 最も重要なエネルギー問題については、先進地域は、「エネルギーの多消費」との回答が48%で最も多く、特に北米は回答の3/4を占めた。ついで「エネルギー源の構成比率の偏り」であった。これに対し、途上地域は、「利便性の高いエネルギーのコストが高い」「再生可能なエネルギーの利用が不十分」との回答がそれぞれ20%で最も多かった。
- ・ 「エネルギーの多消費」の回答が低かったのは、中南米とアフリカであった。中南米は「エネルギー源の構成比率の偏り」との回答が最も多く、アフリカは、「利便性の高いエネルギーのコストが高い」との回答が最も多かった。「利便性の高いエネルギーのコストが高い」との回答は西欧、北米、日本を除く各地域で比較的多く、アフリカが最も多かった(36頁データ参照)。

問3-3-2. あなたの国全体としてのエネルギー供給量をどう考えますか。次の中からあてはまると思うものを1つ選んでください。



エネルギー供給量(全体)

先進地域		途上地域			その他			海外合計	先進地域	途上地域	その他地域	全体		
日本	北米	西欧	先進アジア	その他アジア	中南米	アフリカ	オセアニア						東欧	北ソ連
[N=307]	[49]	[70]	[37]	[53]	[23]	[37]	[22]	[36]	[21]	[348]	[463]	[113]	[79]	[655]

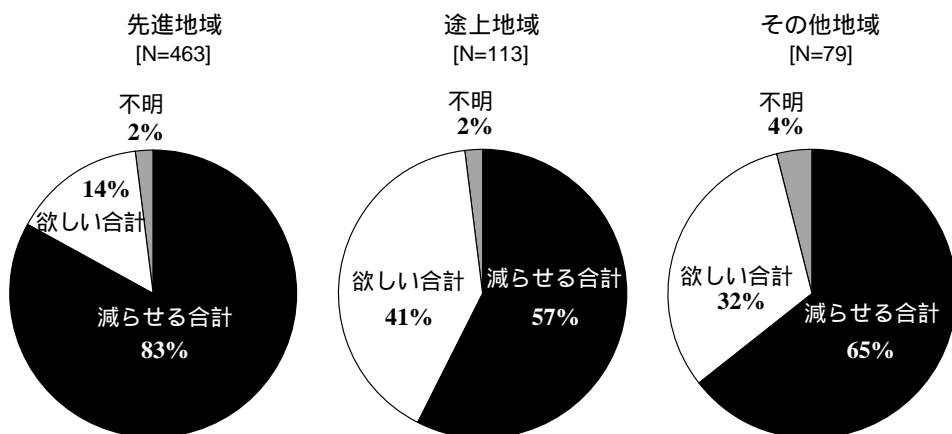
過剰である	46	51	34	49	2	4	0	36	19	19	25	45	2	24	35
丁度良い	40	33	47	27	21	52	27	41	47	43	36	39	29	44	38
不足気味である	11	16	10	22	57	30	35	18	31	29	27	13	44	27	20
大変不足している(経済に支障)	2	0	4	3	21	9	35	5	3	10	10	2	23	5	6
不明	1	0	4	0	0	4	3	0	0	0	1	1	2	0	1

◎:最もポイントが高い項目 ○:2番目にポイントの高い項目

- ・ エネルギー供給量について、先進地域では「過剰である」との回答が45%、「丁度良い」を合わせると84%に達した。これに対し、途上地域は、「不足気味である」との回答が44%、「大変不足している」の23%と合わせ2/3が「不足している」との回答で、対照的であった。
- ・ 「過剰である」と回答した割合が最も高かったのは、北米の51%、逆に「大変不足している」と回答した割合が最も高かったのはアフリカの35%であり、地域特性をよく反映している。

問3-3-3. あなたの国のエネルギー問題を考慮した場合、あなた個人の生活で消費するエネルギーの量をどのくらいとする覚悟がありますか。近いものを1つ選んでください。

個人としてのエネルギー消費に対する意欲



- ・ 先進地域、途上地域、その他地域いずれも、エネルギー問題を考慮した場合、個人的な消費エネルギー量を「20%削減する」および「50%以上削減する」とする覚悟があると回答するものが合わせて50%を超えており、個人的には消費エネルギーを削減しようとする意欲が強いことを示している。
- ・ 3つの地域の中では、「同じくらい欲しい」「2倍は欲しい」「どうしても10倍は欲しい」を合わせた「同等ないしそれ以上欲しい」とする回答は、先進地域の14%と比べ、途上地域では41%と最も高かった。その他地域は、その中間の32%であった。
- ・ オセアニアと北米では「50%以上削減する」と答えた回答者が40%を越えた(36ページデータ参照)。

問3-3-4. 化石燃料に替わるエネルギーとして、あなたの国では何が最も有効と考えますか。有効と思われる順にカッコ内に数字を記入してください。

化石燃料に替わる有望エネルギー

先進地域					途上地域			その他			海外合計	先進地域	途上地域	その他地域	全体
日本	北米	西欧	先進アジア	その他アジア	中南米	アフリカ	オセアニア	東欧・旧ソ連	中東						
[N=307]	[49]	[70]	[37]	[53]	[23]	[37]	[22]	[36]	[21]	[348]	[463]	[113]	[79]	[655]	

原子力	34	22	27	30	9	0	8	18	39	10	20	32	7	25	27
風力	6	8	9	8	8	9	5	14	3	14	8	6	7	9	7
太陽光発電	32	33	27	51	42	35	46	45	22	48	37	33	42	35	35
バイオマス	13	8	11	0	15	13	14	0	14	10	10	11	14	9	12
水力	7	8	11	5	17	22	14	5	3	0	10	7	17	3	8
その他	1	14	10	5	6	9	3	14	6	0	8	4	5	6	5
不明	7	6	4	0	4	13	11	5	14	19	7	6	8	13	7

◎:最もポイントが高い項目 ○:2番目にポイントの高い項目

- 化石燃料に替わるエネルギーで有効なものとして1位に取り上げられた割合で見ると、海外合計では「太陽光発電」が37%と比率が最も高く、ついで「原子力」の20%であったが、日本は、「原子力」が34%と最も高く、ついで「太陽光発電」が32%であった。
- 地域別に見ると、先進地域では、「太陽光発電」が33%で「原子力」が32%と拮抗しており、西欧は「太陽光発電」と「原子力」がそれぞれ27%であったのに対し、北米は「太陽光発電」が33%で「原子力」が22%、そして先進アジアは「太陽光発電」が51%で「原子力」が30%であった。途上地域は「太陽光発電」が42%と圧倒的で、「原子力」との回答は7%で、「水力」「バイオマス」について4番目であり、化石燃料に替わるエネルギーとしてあまり対象となりにくいと認識していることを示している。

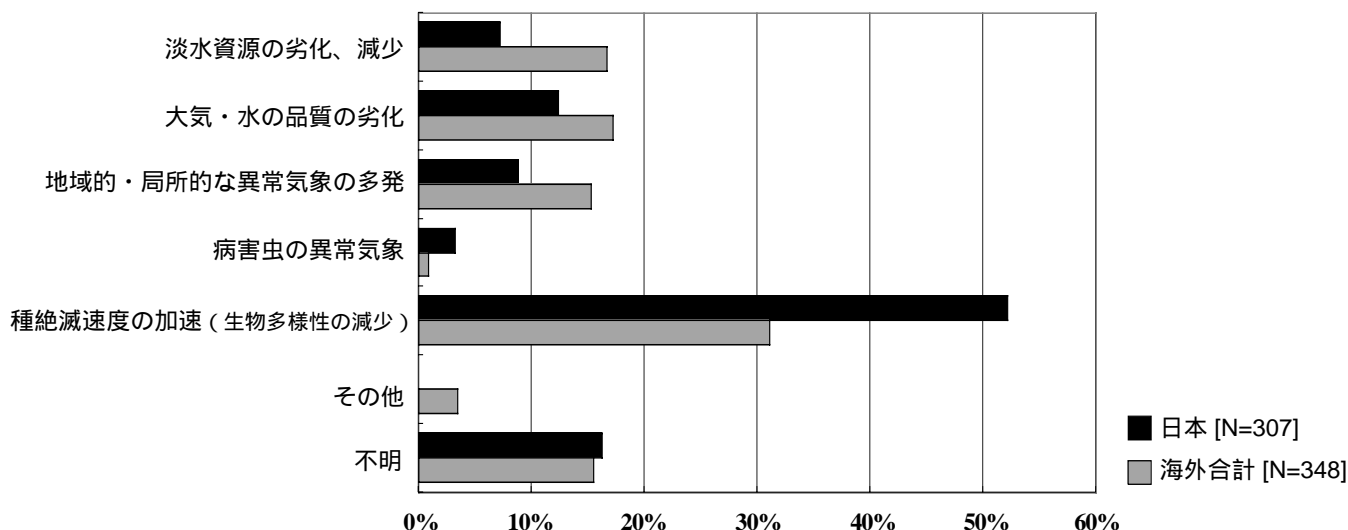
3-4 . 生態系・生物多様性の保全・再生問題（調査票：問3-4）

問3-4-1. あなたは生態系・生物多様性の保全・再生問題で取り組むべき課題は何だと思いますか。重要と思われる項目を2つ選んでください。

- 生態系・生物多様性の保全・再生問題でグローバルに取り組むべき課題として、日本、海外合計とも回答の多い順に「生物生息地の減少」「人間活動による汚染物質の悪影響」「生物種の減少」であった。「生物生息地の減少」と回答した比率は、東欧・旧ソ連を除くいずれの地域でも最も高く、先進アジア、オセアニア、北米、日本では80%を超えた。東欧・旧ソ連では「人間活動による汚染物質の悪影響」とする回答が最も高く58%であった(36頁データ参照)。

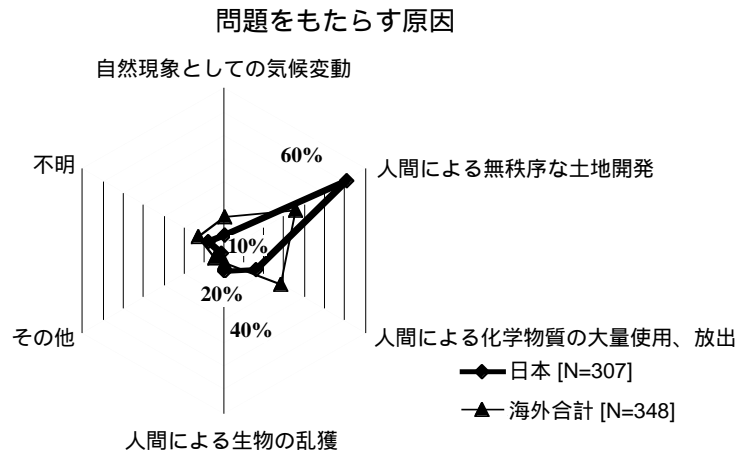
問3-4-2. 前問であなたが生態系・生物多様性における問題として選んだ課題は何に最も影響を与えますか。あてはまるものを1つ選んでください。

何に最も影響を与えるか



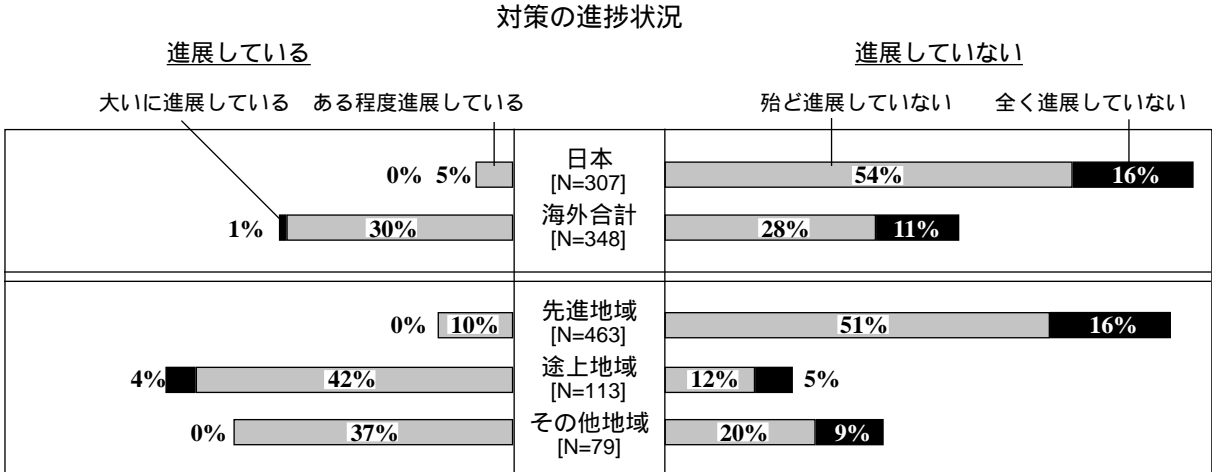
- 日本、海外合計とも、「種絶滅速度の加速」との回答が最も多く、全体で40%を超えた。特に日本は、52%と最も高かった。

問3-4-3. あなたは生態系・生物多様性における問題をもたらしている主な原因は何だと考えますか。あなたの地域・国における課題としての視点からあてはまるものを1つ選んでください。



- 生態系・生物多様性における問題をもたらす主な原因については、日本は、「人間による無秩序な土地開発」とする回答が60%を超え圧倒的であったが、海外合計では、「人間による無秩序な土地開発」とする回答が35%、「人間の化学物質の大量使用、放出」とする回答が28%であった。「人間の化学物質の大量使用、放出」が原因とする回答は、先進アジア、その他アジア、アフリカ、東欧・旧ソ連、中東などの地域で高かった(37頁データ参照)。

問3-4-4. あなたは生態系・生物多様性の保全・再生問題への対策の進捗状況をどのように捉えていますか。あてはまると思うものを1つ選んでください。



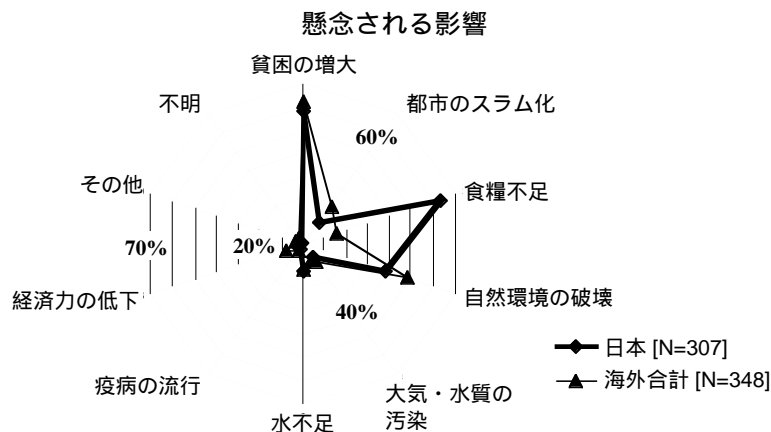
- 生態系・生物多様性の保全・再生問題への対策の進捗状況については、先進地域では「進展していない」との回答が67%と「進展している」との回答10%を大きく上回ったのに対し、途上地域、その他地域は、いずれも40%前後が「進展している」と回答し、「進展していない」との回答20乃至30%を上回り、対照的であった。
- 「進展している」との回答が50%を越えたのはその他アジアで、これに続き、中東、東欧・旧ソ連が40%以上、中南米、アフリカが30%以上であった(37頁データ参照)。

3-5 . 人口問題（調査票：問3-5）

問3-5-1. あなたにとってグローバルに取り組むべき人口問題とは何ですか。あてはまると思うものを1つ選んでください。

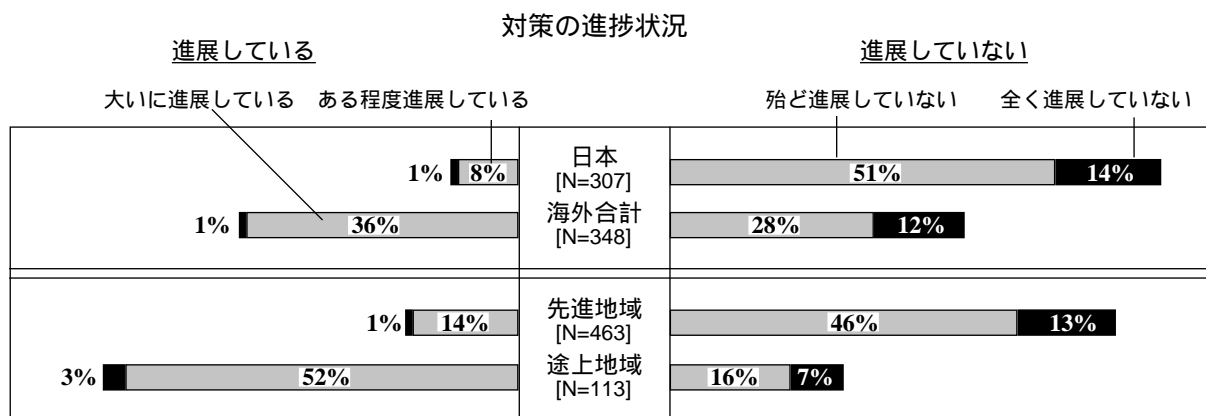
- 人口問題については「発展途上国の爆発的増加」が問題とする回答が海外合計で70%以上、日本は90%以上の高率であった。他方、「将来的に人口増加は止まると予想されるので、特に問題ではない」との回答が多かったのは、先進アジアの40%、東欧・旧ソ連も20%強、中東、西欧が14%であった(37頁データ参照)。

問3-5-2. 人口問題により引き起こされる影響で懸念されることは何ですか。あてはまると思うものを2つ選んでください。



- 人口問題により引き起こされる影響としては海外合計、日本のいずれも「貧困の増大」と「自然環境の破壊」との回答が多かった。ただし、日本は「食糧の不足」との回答が60%を超えたのが特徴的である。
- 途上地域では、「貧困の増大」と「自然環境の破壊」に加え、「都市のスラム化」を上げる回答が比較的多かった(37頁データ参照)。

問3-5-3. あなたはグローバルな人口問題への対策の進捗状況をどのように捉えていますか。あてはまると思うものを1つ選んでください。



- 人口問題への対策の進捗状況については、海外合計では「進展している」との回答と「進展していない」との回答がそれぞれ40%程度で見方が分かれたのに対し、日本は「進展していない」との回答が65%で、「進展している」との回答9%を大きく上回った。
- 先進地域では「進展していない」とする回答が「進展している」の4倍もあったのに対し、途上地域では、「進展している」との回答が、「進展していない」との回答の2倍もあり、全く逆の結果となり極めて対照的であった。中でもその他アジアは69%が、アフリカは59%が「進展している」とした(37頁データ参照)。

4 . 取り組むべき地球環境問題 - ローカルな環境問題（調査票：問4）

昨年度質問した「取り組むべき地球環境問題 - ローカルな環境問題」では、地域別にローカルな優先課題として次の各項目が挙げられた。

地域	第1優先課題	第2優先課題	第3優先課題
日本	廃棄物	都市・交通	エネルギー
先進アジア	廃棄物	都市・交通	酸性雨・大気
東欧・旧ソ連	廃棄物	都市・交通	生態系
中東	廃棄物	都市・交通	砂漠化・土壌
西欧	都市・交通	廃棄物	生態系
北米	都市・交通	地球温暖化	エネルギー
アフリカ	貧困	廃棄物	砂漠化・土壌
その他アジア	貧困	廃棄物	人口
中南米	森林減少	貧困	生態系
オセアニア	地球温暖化	生態系	海洋・水

今年度はこれらの課題について、各地域の問題点を明らかにすべく掘り下げた質問をし、以下の結果を得た。

以下は、各地域が自分の地域をどう捉えているかについての説明およびデータである。

4-1 . 酸性雨・大気汚染問題（先進アジア）

（38頁データ参照）

【調査票でたずねた質問項目】

問1. あなたの地域・国において問題となっているのは酸性雨もしくは大気汚染のどちらですか？

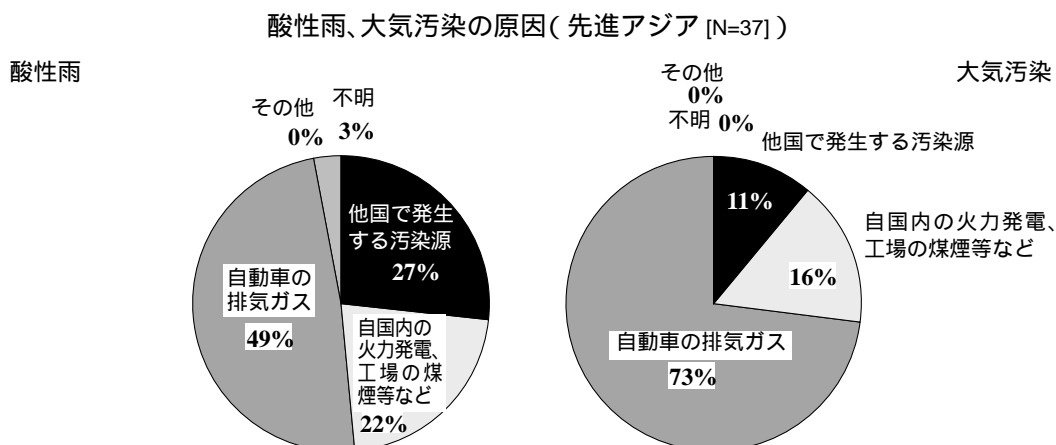
問2. 酸性雨が最も大きな影響を与えているのはどこですか？

問3. 酸性雨の原因は何だと思いますか？

問4. 酸性雨の対策の進展状況をどのように判断しますか？

問5. 大気汚染の原因は何だと思いますか？

問6. 大気汚染の対策の進展状況をどのように判断しますか？



- ・「酸性雨と大気汚染の両方」が問題であるとする回答(89%)が圧倒的で、主たる原因としては、「自動車の排気ガス(酸性雨:49%、大気汚染:73%)とともに、酸性雨では「他国で発生する汚染源」が原因とする回答も27%あった。そして、酸性雨は「森林の破壊、森林生態系への影響(70%)」「人体への直接被害(49%)」に最も大きな被害を与えているとの回答であった。
- ・対策の進捗状況は、大気汚染については「進展していない」との回答(41%)が「進展している」との回答(22%)の2倍であったが、酸性雨については「どちらとも言えない」と「不明」の回答を合わせると60%あり、見方は特定できなかった。

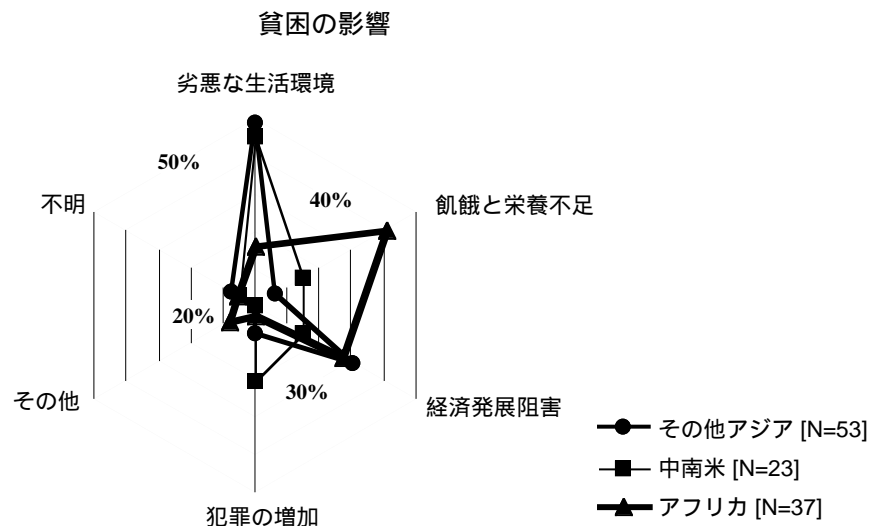
4-2 . 貧困問題（その他アジア、中南米、アフリカ）

(38頁データ参照)

【調査票でたずねた質問項目】

- 問1. 貧困問題をもたらす大きな要因は何だと思いますか？
 問2. 貧困問題の最も大きな影響はどのようなところに現れていますか？
 問3. 貧困問題への対策の進展状況をどのように判断しますか？
 問4. 貧困問題は克服できると思いますか？

- ・すべての途上地域が貧困をローカルな問題としてとりあげており、そのいずれの地域も、貧困問題が「現状より大分改善できる」とする回答と「現状より悪化する」との回答が40%前後で拮抗しており、似た傾向を示した。



- ・中南米は「政治的・経済的環境(43%)」要因によって、「劣悪な生活環境(45%)」に大きな影響を与えているとし、同様に「政治的・経済的環境(32%)」要因を上げたアフリカは、「飢餓と栄養不足(41%)」と「経済発展を阻害する(27%)」に大きな影響を与えているとした。
- ・一方、その他アジアは、「人的資源への投資の不足(19%)」および「人口の増加(13%)」を主要因として上げたものの、「不明」との回答(43%)が最も多く、要因については必ずしも明らかにならなかったが、「劣悪な生活環境」に大きな影響を与えていると回答(49%)した。
- ・対策の進展状況については、その他アジアが「進展している」と回答(63%)したのに対し、中南米とアフリカは「進展していない(中南米:65%、アフリカ:46%)」との答えが「進展している」を上回った。

4-3 . 海洋および淡水資源問題（オセアニア）

(39頁データ参照)

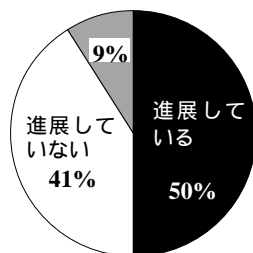
【調査票でたずねた質問項目】

- 問1. 海洋および淡水資源問題で取り組むべき課題は何だと思えますか？
- 問2. 海洋および淡水資源問題はどのような影響を与えていると思えますか？
- 問3. 海洋および淡水資源の問題への対策の進展状況をどのように判断しますか？

- ・ 海洋および淡水資源問題については、「淡水資源の劣化、枯渇（73%）」と「漁業資源の減少」（64%）が課題であるとし、「漁業資源減少による漁業へのダメージ（36%）」「サンゴ礁の破壊による漁業、観光資源の劣化（32%）」に影響を与えているとの回答であった。

対策の進捗状況(オセアニア [N=22])

どちらとも言えない



- ・ 対策の進捗状況については、「進展している（50%）」が若干「進展していない（41%）」を上回ったが、「どちらとも言えない（9%）」を入れると見方が分かれている。

4-4 . 森林減少問題（中南米）

(39頁データ参照)

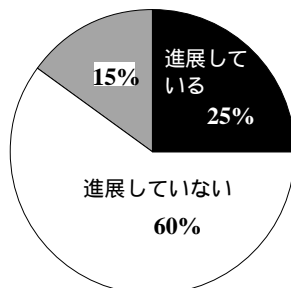
【調査票でたずねた質問項目】

- 問1. 森林減少の影響が最も大きく現れているのはどの点ですか？
- 問2. 森林減少の主要な原因は何だと思えますか？
- 問3. 森林減少問題への対策の進展状況をどのように判断しますか？

- ・ 森林減少問題は、「農業用地としての利用拡大（60%）」と「木材の過伐採、違法伐採（55%）」が原因であるとし、「土壌侵食、土砂災害、河川の氾濫」に影響を与えているとの回答が圧倒的であった(75%)。

対策の進捗状況(中南米 [N=23])

どちらとも言えない



- ・ 対策の進捗については、「進展していない」とする回答(60%)が、「進展している」とする回答(25%)を大きく上回った。

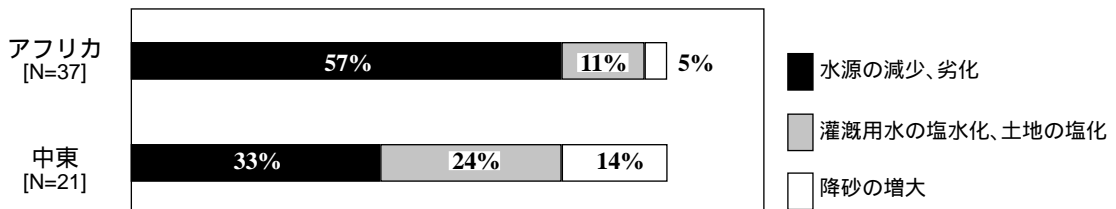
4-5 . 砂漠化・土壌劣化問題（アフリカ、中東）

（39頁データ参照）

【調査票でたずねた質問項目】

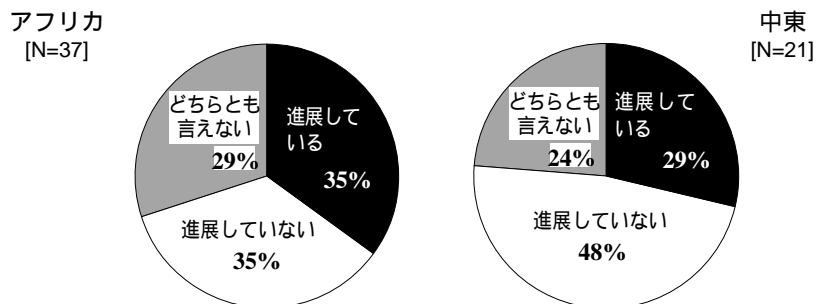
- 問1. 砂漠化・土壌劣化問題で取り組むべき最重要課題は何ですか？
 問2. 砂漠化・土壌劣化問題の影響はどのような形で現れていますか？
 問3. 砂漠化・土壌劣化問題の原因(人為的、自然気候)は何だと考えますか？
 問4. 砂漠化・土壌劣化問題への対策の進展状況をどのように判断しますか？

取り組むべき重要課題



- ・ アフリカにおいては、「水源の減少、劣化」が課題との回答が最も多く(57%)、人為的原因としては「無計画な開発(30%)」「過放牧(22%)」が、自然現象がもたらす原因としては「気候変動(49%)」が上げられ、「農業生産の減少(57%)」に影響を与えているとの認識であった。
- ・ 中東においては「水源の減少、劣化(33%)」と同時に、「灌漑用水の塩水化、土地の塩化(24%)」も課題であると、地域による違いが見られた。原因については、人為的なものでは「無計画な開発(52%)」自然現象では「気候変動(38%)」に加え「風食(29%)」が上げられ、地域の自然現象の差が反映されており、「農業生産の減少(38%)」に影響を与えているとの回答であった。

対策の進捗状況



- ・ 対策の進捗状況について、アフリカは、「進展している(35%)」「進展していない(35%)」「どちらともいえない」および「不明(合計29%)」との回答がほぼ同じで、見方が分かれたのに対し、中東は、「進展していない(48%)」が「進展している(29%)」を上回った。

4-6 . 廃棄物問題（日本、西欧、先進アジア、その他アジア、アフリカ、東欧・旧ソ連、中東）

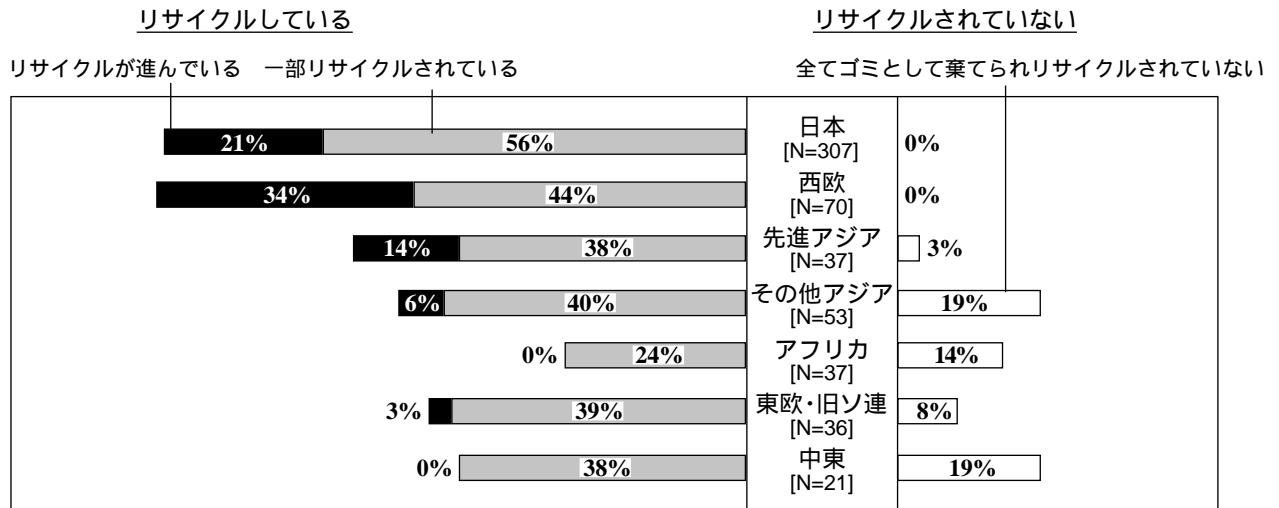
（40頁データ参照）

【調査票でたずねた質問項目】

- 問1. 廃棄物問題で特に優先的に取り組むべき課題は何だと思えますか？
 問2. 廃棄物問題の与える影響で、最も大きなものは何だと思えますか？
 問3. リサイクルに対する取り組みはどのレベルにあると思えますか？
 問4. 廃棄物問題への対策の進展状況をどのように判断しますか？

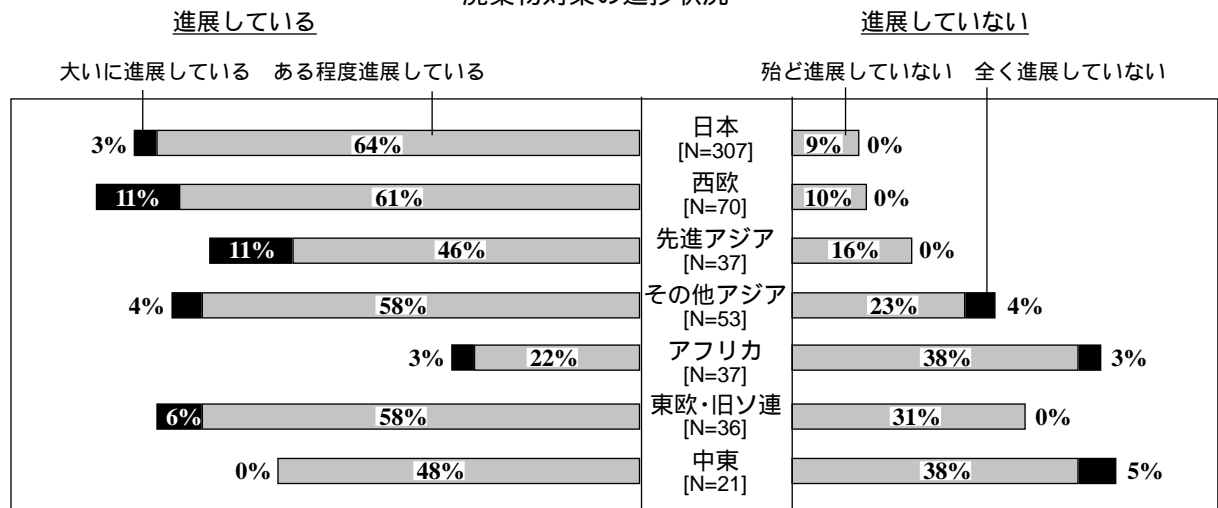
- ほとんどの地域は「生活廃棄物」および「産業廃棄物」を課題に上げ、中でも日本と先進アジアは「産業廃棄物」(日本:73%、先進アジア:70%)との回答が多かった。先進アジアと西欧は「有毒・有害物質」(先進アジア:54%、西欧:46%)との回答も比較的多かった。
- この問題の与える影響として、中東とアフリカは高い割合で「健康への悪影響」(中東:62%、アフリカ:62%)とした他、先進アジア、その他アジア、東欧・旧ソ連でも「健康への悪影響」との回答が比較的高かった。日本、西欧、その他アジアは「生活環境の劣化」(日本:43%、西欧:53%、その他アジア:47%)、先進アジアと日本は、「生活安全性への脅威」(先進アジア:35%、日本:26%)との回答も比較的多かった。

リサイクルの取り組みレベル



- ほとんどの地域でリサイクルは始まっている。「リサイクルが進んでいる」との回答が一番多かったのは西欧の35%、ついで日本の21%。西欧と日本は、「リサイクルが進んでいる」と「一部リサイクルされている」の合計が70%を超えた。

廃棄物対策の進捗状況



- 廃棄物問題への対策について、「進展していない」とする割合が40%を超えたのはアフリカと中東。その他の地域は「進展している」とする回答が50%を超えた。「リサイクルが進んでいる」との回答が多かった西欧と日本は、廃棄物問題の対策についても「進展している」とする割合が高かった。
- 特徴的な地域としてアフリカを取り上げる。アフリカは、廃棄物の影響について、「健康への悪影響」を圧倒的に上げており(62%)、他地域とは大きな違いを示している。リサイクルについては「始まったばかり」が49%で、「リサイクルしている」は0%で「一部リサイクルされている」でも24%にとどまっている。対策についてもこれを反映した形となっており、「進展していない」(41%)との認識が「進展している」を上まわっている唯一の地域である。

4-7 . 都市・交通問題（日本、北米、西欧、先進アジア、東欧・旧ソ連、中東）

（41頁データ参照）

【調査票でたずねた質問項目】

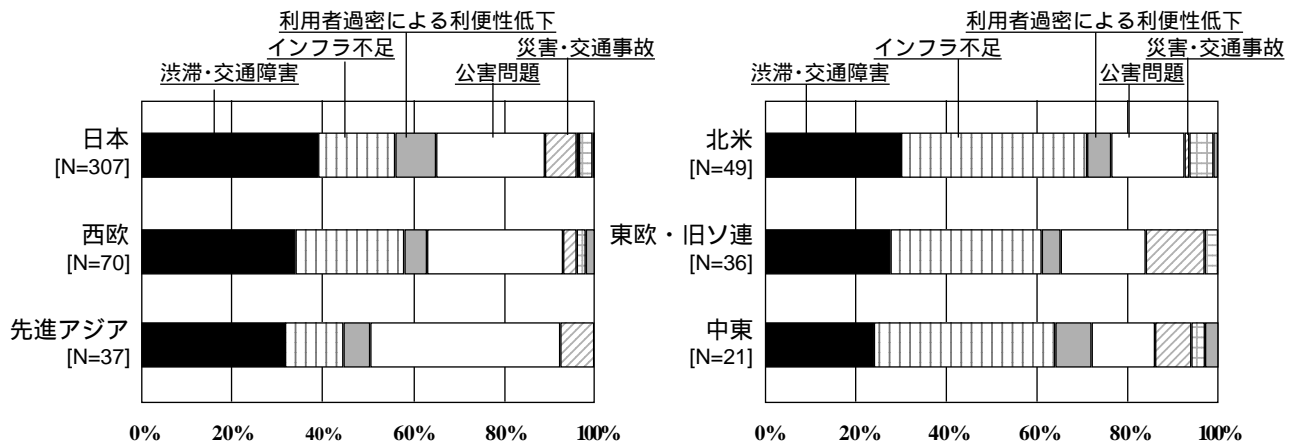
問1. 交通問題で取り組むべき課題は何だと思いますか？

問2. 都市環境問題で取り組むべき課題は何だと思いますか？

問3. 都市環境問題に関係の深い都市インフラで、重視すべきと思われるものは何ですか？

問4. 都市・交通問題への対策の進展状況をどのように判断しますか？

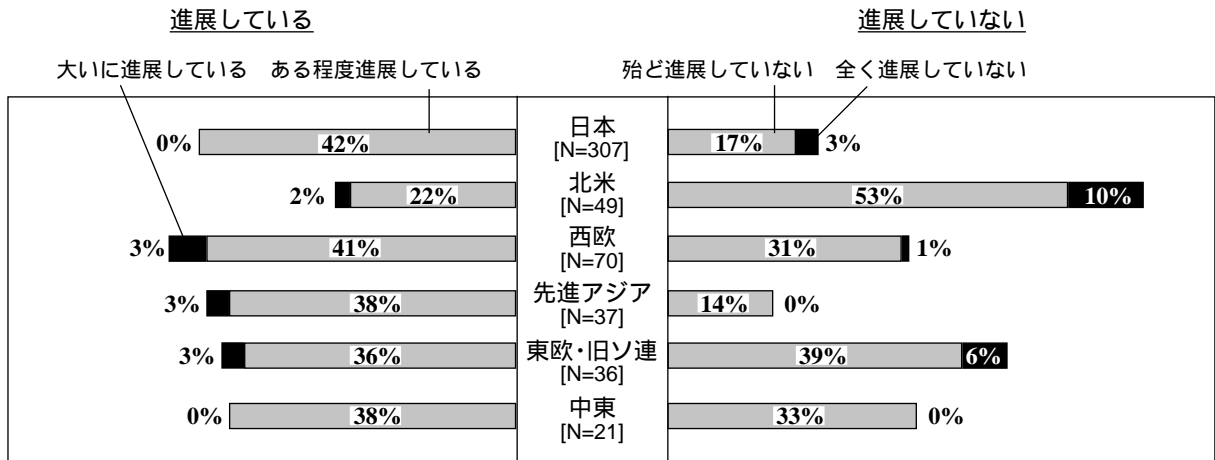
交通問題で取り組むべき優先課題



注)合計は「2つ選択」なので原則的に200%。但し、ここでは100%換算で案分をしている。

- 都市交通については、これがローカルな環境問題であるとしたいずれの地域も「自動車の過密による渋滞・交通障害」が課題であるとする回答が高かったが、その他の項目では、先進アジア、西欧、日本が「輸送車両などによる公害問題」との回答が多かったのに対し、北米、中東、東欧・旧ソ連は「公共交通・輸送インフラの欠如・整備不足」との回答が多かった。
- 都市環境については、一番の課題であると捉えている事項に地域差があった。以下に地域ごとに課題と重視すべきインフラについての回答を列挙する。
 - 北米は「都市のスプロール化（80%）」を課題とし、重視すべきインフラは「交通インフラの整備（69%）」と「エネルギー供給（45%）」とした。
 - 西欧は「都市のスプロール化（51%）」と「大気汚染および騒音（40%）」を課題とし、重視すべきインフラとして「交通インフラの整備（73%）」と「エネルギー供給（37%）」を上げた。
 - 東欧・旧ソ連は「緑や自然空間の消失（47%）」と「廃棄物の増大（42%）」を課題とし、重視すべきインフラとして「交通インフラの整備（64%）」と「廃棄物処理施設の整備（58%）」を上げた。
 - 日本は「廃棄物の増大（64%）」と「緑や自然空間の消失（51%）」を課題とし、重視すべきインフラとしては「廃棄物処理施設の整備（72%）」を第1に上げている。
 - 先進アジアは「大気汚染および騒音」を最大の課題（65%）とし、重視すべきインフラとしては「交通インフラの整備（76%）」とした。
 - 中東は課題については「廃棄物の増大」との回答が一番高かったものの、他の殆どすべての項目も課題として取り上げており差がなかった。重視すべきインフラは「交通インフラの整備」との回答（57%）が最も多かったが、「廃棄物処理施設の整備（38%）」と「水の供給（38%）」との回答も比較的多かった。

対策の進捗状況



- 都市・交通問題の対策の進捗については、「進展していない」とする回答が「進展している」を上回ったのは北米と東欧・旧ソ連の2地域。日本、西欧、先進アジア、中東は「進展している」との回答が「進展していない」を上回った。日本と先進アジアは「どちらともいえない」とする回答も40%程度あった。

4-8 生態系・生物多様性の保全・再生問題（西欧、中南米、オセアニア、東欧・旧ソ連）

(42頁データ参照)

【調査票でたずねた質問項目】

- 問1. 生態系・生物多様性の保全・再生問題で取り組むべき課題は何だと思えますか？
- 問2. 前問で選んだ課題は何に最も影響を与えと思えますか？
- 問3. 生態系・生物多様性における問題をもたらしている主な原因は何だと思えますか？
- 問4. 生態系・生物多様性の保全・再生問題への対策の進展状況をどのように判断しますか？

取り組むべき課題

西欧	中南米	オセアニア	東欧・旧ソ連
[N=70]	[23]	[22]	[36]

	西欧	中南米	オセアニア	東欧・旧ソ連
生物生息地の減少（含：森林破壊、農地用地開拓）	54	70	41	50
生物種の減少	30	13	14	19
外来種の混入・侵入による従来の生態系の破壊	14	39	59	19
人間活動による汚染物質（含：栄養素（肥料）汚染）の悪影響	49	30	36	58
農水産資源の減少	21	17	23	8
その他	7	9	0	3
不明	9	0	14	14

◎: 最もポイントが高い項目 ○: 2番目にポイントの高い項目

注) 地域別の合計は「2つ選択」なので原則的に200%。但し、「2つ以下」の回答者がいるので、200%に満たない。

- この問題について、東欧・旧ソ連は「人間活動による汚染物質の悪影響（58%）が課題であるとし、「人間による無秩序な土地開発（44%）」と「人間による化学物質の大量使用、放出（回答者比率31%）」が原因で、「大気・水の品質の劣化（33%）」に最も影響を与えているとした。
- オセアニアは「外来種の混入・侵入による従来生態系の破壊（58%）」が課題であるとし、「人間による無秩序な土地開発（44%）」が原因で、「淡水資源の劣化、減少（27%）」「種絶滅速度の加速（18%）」に最も影響を与えていると回答した。
- 中南米は「生物生息地の減少（70%）」が課題であるとし、「人間による無秩序な土地開発（52%）」が原因で、「地域的・局所的な異常気象の多発（26%）」「種絶滅速度の加速（26%）」に最も影響を与えているとした。
- 西欧も「生物生息地の減少（54%）」が課題であるとし、「人間による無秩序な土地開発（41%）」が原因で、「種絶滅速度の加速（30%）」に最も影響を与えているとした。
- 対策の進捗状況については、西欧とオセアニアは「進展している」とする回答が60%前後で、「進展していない」との回答を大きく上回り、東欧・旧ソ連も「進展している」とする回答が50%弱で、「進展していない」との回答を若干上回った。これに対し、中南米は「進展していない」との回答が50%強で、「進展している」とする回答の35%を上回った。

IV. 自由記述

今回の調査では、海外 47 カ国 97 件、国内 113 件の合計 210 件の自由記述を頂戴し、世界各地における環境問題の実情やご意見、ならびに地球環境を改善するための方策やアイデアを教えて頂きました。自由記述のテーマは極めて多岐にわたっており、ひとつの記述で多くのテーマに言及するものも多いので分類が困難でした。また、設問に対するアドバイスや要望も頂きましたので、来年の設問作成の際には参考にさせて頂きたいと存じます。

今回頂いた自由記述の一部を下記に掲載いたしますが、紙面の都合上、海外 22 カ国 34 件、国内 25 件のご意見しかご紹介できないことをお詫び申し上げます。採録させて頂いたご意見、感想には、氏名（敬称略）所属組織名、国名、事務局番号を明記いたしましたが、匿名希望者は匿名とし、男性を M、女性を F として表記しております。尚、海外から日本語でご意見を頂いたものもございました。

海外からのご意見

I would like to make a big change in lifestyle to reduce my environmental footprint. Current lifestyles are not sustainable. It is hard to make that kind of change as a working mother.

F, ASIA 006

The main negative impacts on the environment are caused by interactions, not by single issues. For example, population growth combined with growing desires to have a high material standard of living causes damage to the environment, not just population growth alone. The main impact of energy scarcity will be to reduce the viability of large cities and to give incentives for use of nuclear weapons.

M, North America 019

In most African countries, the use of non-biodegradable materials and pesticides without proper handling of the toxic substances is very high. There is a pressing need to let the societies be aware of the outcomes of these activities. In some African societies, the wealth of an individual is determined by the size of the family he has. You can even find a man with 10 wives and more than 40 children in some societies. Thus family planning should be preached in such societies.

Mr. Leonard Jones Chauka, Institute of Marine Sciences, TANZANIA 043

The first and foremost important thing is to bring/raise awareness of the people at all levels about environmental problems. This is still very much lacking in the majority of communities in Asian countries.

M, AIT, THAILAND 050

Human existence creates its own problems and humans must develop solutions for them. Some progress is being made despite mankind's egoistic and undisciplined approach to life. Only when problems have become much more threatening to human existence will humans exercise sufficient discipline (and self discipline) to conquer them.

M, Retired, U.K. 051

The population explosion, coupled with excessive air travel and global warming, will inevitably result in the increase of disease (especially viral and prion infections) to which humans will become increasingly less resistant as environmental conditions and food shortage are exacerbated by climate deterioration.

Mr. J. M. Cloudsley Thompson, Emeritus Professor, University of London, U.K. 055

People of the developing countries want to attain the standard of living enjoyed by those in the “western countries” – and why not? The problem is, we cannot all have that standard of living. It will bankrupt the planet environmentally. However, I doubt “westerners” will give up their ecological-footprint willingly, so that others in poorer countries can have a little more. We have a huge dilemma.

F, Contractor, Gisborne District Council, NEW ZEALAND 074

Global warming, desertification, melting of polar ice are — signs of danger that is to happen in the future. There is lack of leadership to solve the problem globally. We are slowly but surely moving to our doom. By the time leaders are aware of the problems it might be too late.

Mr. Mesfn Giorhs, Bureau of Finance and Economic Development, ETHIOPIA 117

About waste materials management, lot of progress has been made in my country (Senegal) by the National Environment Department to solve this problem, and so fight the deterioration of environment for the best quality of life.

Mr. Pathe Balse, Direction de Environment et Etablissements Clanes, SENEGAL 118

Biodiversity conservation through people's participation. People in developing countries are much more vulnerable to effects of environmental degradation because they often directly depend on the land. Environmental disasters are major problems – Save Environment & save life.

M, G.B. Pant Institute, INDIA 129

I find the problems all come back to over-population of cars. It causes too much driving, sprawl, over-consumption, pollution, over-consumption of valuable fossil fuels, inequality, loss of community, disenfranchisement of young and old (who don't drive). The switch from private car ownership to collective car ownership and sharing is the way to go. Look at the car-sharing movement.

Mr. Chris Bradshaw, Vice President, Vrtucar, CANADA 142

Individuals need to feel greater responsibility for their actions; governments need to step in and provide more incentives and regulations; and people everywhere need to understand the basics of population growth.

F, CANADA 146

Thirty years ago we were witnessing television programs advising us that the global environment was deteriorating. In the early to mid 1980s these programs proliferated and we were being increasingly warned about ozone depletion, deforestation, climate change, toxic pollution of water air and land, loss of biodiversity etc. Earth summits came and went, the world shifted focus, we invaded and were invaded, terrorism raised its head and over time the environmental movement lost its edge and governments lost their will. Now, in a typical thirty year change cycle, we are being bombarded again as noted figures such as David Attenborough warns us of global perils and there is a new-old movement to living simply and lightly on the planet as latter day hippies leave town and set up composting toilets, wind turbines and solar collectors, grow their own and revive good old fashioned values. Are we doomed to move in cycles of repetition or can we not shift focus and make whole, lasting and permanent changes?

Ms. Carole Douglas, Director, Desert Traditions, AUSTRALIA 149

Poverty is the principal problem that leads to for example deforestation, over fishing and poor living conditions. In Latin America, it should be top priority to alleviate poverty.

Mr. Francisco J. Lozano, Tecnologico de Monterrey, MEXICO 151

As I see it, the main global problem is the universal unwillingness to accept that economic and population growth are the main causes of the environmental crisis. The consequence of this is that the measures being adopted are not commensurate with the scale of the problem.

Mr. J. G. Mosley, Principal, Peak Environmental Enterprises, AUSTRALIA 156

Global and national environmental and social considerations in the US and abroad are being held hostage by the inane, international militaristic policies of the current US President and his lackeys.

Mr. Gene M. Owens, Exec. Director, Eco-Share Group, U.S.A. 167

Israel is a model for turning the desert green. We are willing to teach others. It is a shame that prejudice against us causes people to refuse our help.

Dr. F. Leavitt, Centre for Asian and International Bioethics, ISRAEL, 175

Population control, reducing the number of automobiles produced all over the world especially in developing countries and China, replacing plastics with some other things like cloth, stopping military actions and wars and increasing the level of education are the most important tasks have to be done.

M, Managing Director, Taravat Bahar Environmental Institute, IRAN 184

1. All developmental activities must have environmental approach.
2. Any development activity must be with consent and participation of local people.
3. Development should be sacrificed for environment, when there is need.

Dr. Sundara Narayana Patro, Director, HONEST, INDIA 202

In Latin America the environmental problems are known. However, the lack of resources (human, financial and technical) results in limited activities to correct these problems. In addition, there is a preference towards economic development rather than environmental conservation and management and as such the environment is often neglected.

M, Environmental Protection Agency, GUYANA 208

Climate change is a disease that has hit mother EARTH – like HIV-AIDS is to humans, we don't know the disease is worsening, we refuse to believe, we have yet to find a cure, we don't agree to a united change, we rely on hope our common good, vs. you and me. Entropy prevails unless we fight our very own environmental problems, which are ours domestically.

Mr. Peuianina Learai, Ministry Natural Resources, Env-Meteorology, SAMOA 222

As always, my primary environmental concern is the proliferation of nuclear weapons. It is apparent that they will become much more widely available in the near future. If this is the case, I think it is inevitable that they will be used and unprecedented environmental destruction will be the consequence. Whole countries or continents could be rendered uninhabitable in a matter of minutes. Environmental scientists and public health officials must recognize this threat and should take steps to do what can be done to prevent the spread and use of nuclear weapons. The first step is to acknowledge the threat and to clearly see how close we are coming to global catastrophe.

Mr. Andrew B. Lindstrom, Research Scientist, U.S. Environmental Protection Agency, U.S.A. 228

If you have the same sun energy and you increase the population and the quality of life, then as a consequence you need additional energy; this additional energy can be obtained by fossil carbon, by nuclear power plants, by elimination of other species, by wars, and so on. No solution if the population following growing and bad solution if the level of life-style continues increasing.

Mr. Juan F. Gallardo Lancho, Spanish Ministry of Education & Science, SPAIN 230

Environmental problems give rise to poverty. In Africa, particularly Ghana, there are many people living in poverty. They have not been empowered to confront their poor status and they continue to degrade the environment. This is because the environment is their source of life, it is the wealth of the poor. The rich also degrade the environment but they are rich and can find other sources for their livelihood. Empower the poor to confront their status and to use environmental resources sustainable.

Mr. Redeemer Kowu, Director, Environmental Protection Agency, GHANA 236

There are many laws for protecting environment in some countries like Mauritania but the problem is that they are never applied; and this must deserve sanctions from United Nations special agencies.

Mr. Cheihkna A. Aidara, Coordinator, APEM, MAURITANIA 239

Plant resources conservation related to water, energy and agriculture should be the concern of the world if human population should survive.

F, NATURINDO, INDONESIA 253

I am a Kenyan environmentalist, a 1990 UNED GLOBAL 500 Laureate. In SSA (Sub-Saharan Africa-) poverty links greatly with environmental degradation for majority people in SSA survive by degrading the environment – Hence poverty becomes a major contributor to environmental degradation in SSA.

Mr. Michael A.N. Odula, Exec. Director, (Environment) Cape-Kenya, KENYA 259

Destruction of ecosystem e.g. through land subdivision in semi-arid pastoral areas will put to an end the intricate traditional grazing cycles and put into disorder the natural way of life. The subdivision will also affect wildlife migration, encourage cultivation and introduce other lifestyles incompatible with wildlife conservation in the Savannas.

M or F Unknown, Consultant Wildlife Monitoring Expert, Amboseli Tsavo Gamescout Association, KENYA 261

Freshwater issues are being addressed in Australia. Over exploitation of marine resources is my major concern – especially illegal fishing that compromises Australian efforts to manage its fisheries.

Dr. Bradford Sherman, Senior Research Scientist, CSIRO Land and Water, AUSTRALIA 269

I think that if we don't make something to stop climate change, the other measures that we are taking to stop some other environmental change will be incidental.

Mr. Turan, Ministry of Environment & Forestry, TURKEY 273

Living with less environmental impact requires lifestyle change; reduce dependence upon long-distance transport of goods (mainly food) and people; more emphasis on local food production. In Canada, very wasteful energy projects (e.g. far sands) are being developed in anticipation of increased dependence upon hydrocarbons.

Mr. Chaslie Roots, Scientist, Federal Government, CANADA 280

The causes for desertification, deforestation and land degradation is based in the important problem: the dictatorial political regimes in Africa. Because it causes their poverty and migrations, no progress environment, no progress health, etc.

M, NGO (Tierra Viva), GUINEA ECUATORIAL 292

In view of colossal degradation in the quality of man-land relationship in greater part of the world, leading to ever increasing environmental degeneration, poverty and pathetic socio-economic disparities, it is imperative on the part of homo sapience to launch a multi pronged crusade in order to ameliorate such relationship through a synergetic, and symbiotic approach to achieve sustainable development for social progress, economic growth and environmental protection on the planet.

Dr. R.V. Verma, Director, Institute for Regional Development Studies, INDIA 298

Oceania suffers from the global environmental impacts of industrialized countries – who pollute the air and the sea with their chemicals – climate change has caused massive sea-level rises which has eroded small island countries, and when the tide is low it is so low that the coral and water life is exposed to the sun.

Ms. Maria Kerslake, Dean, Faculty of Arts, Academic-Higher Institute, SAMOA 307

国内からのご意見

地球環境や自然は変化してゆくことが常態です。一部の自然保護団体が、やみくもに現状維持や過去にあった姿に戻すことを標榜していることは、自然の摂理に反するのではないかと考える。

中村 裕、日本 003J

地球環境問題は全人類が課題とする問題ですが、アフリカを中心とする途上国の貧困問題を解決しない限り、達成は困難と思います。先進国に特有な都市型廃棄物問題、都市交通問題は経済的に豊かであり、環境マインドも進んでいる先進国自身で解決は可能ですが、貧困国の諸問題は国内政治に起因することが多いものの、経済面で自立できる国家創りに世界の国々が積極的に支援する必要があります。途上国が地球環境問題に目を向けるための基盤作りが重要と思います。

M、UNEP (国連環境計画) IETC (国際環境技術センター)、日本 021J

小・中・高校にて防災と同等以上の環境と資源保護の教育を徹底して貰いたい。また、それを諸外国にも発信して地球を守って欲しい。

M、日本 039J

世界人口65億人を超え、世界的規模の格差が生じている中、本来なら全ての地球人類が等しく先進国並みの生活水準を与えられるべきとすると、地球があと2個、計3個必要と言われている。それらを考慮した上で、現在われわれ人類の全てに課せられている質問“われわれは100年後の地球に責任が持てるか？”これにどう答えるかが、今日の環境問題の本質ではないかと思えます。

新田 尚、日本 040J

地球温暖化対策と資源循環型社会の構築は企業のみならず個人一人一人のライフスタイルまで踏み込んだ取り組みが不可欠だと思います。生態系への影響に関しての分野の学問の進展が必要だと思います。

M、日本アイ・ビー・エム(株)、日本 080J

日本が京都議定書を批准してから、温室効果ガス削減目標達成のために、国、自治体、国民はどのような努力をしてきたのか？議定書の批准を、「よかった、よかった。」と喜んだ識者は多いが、目標値達成は極めて困難であろう。目標達成のために何をしなければならないのか、もう認識さえしていない者が多いのではないのか？議定書批准を声を高くして求めた環境関係の識者からも、目標達成の為の具体的提言はあまり聞かれない。目的達成のため、国民一人一人が何をしなければならないのか、ある程度の犠牲、不便は忍ばなければならないかも知れない。残された時間は少ない。排出権取引に走るなどは本筋の解決方法ではない。

那須 博、日本 089J

消費生活の質を落すことについての国民のコンセンサスは得にくくなりつつあるため、問題の解決は困難となっている。経済との関連をいかに調整するかがKeyではないでしょうか。中国などの発展途上を理由に環境を二の次に考える国との調整も含め、日本の果たすべき役割は重いと思います。

M、市原市役所、日本 112J

環境問題はもはや、エンド・オブ・パイプで対応することのできることを超えている。ライフスタイル云々などという生易しいものではなく、消費抑制の方策および、その合意形成のあり方の議論開始が強く求められるであろう。経済活動が人間の本質であり、環境問題の原因であるならば、経済と環境の両立（win-win）などといってマクロ経済的に方策を考えるのではなく、ミクロ経済のレベルから根本的なパラダイム・シフトを目指していくことが必要だろう。

押谷 一、酪農学園大学地域環境学科教授、日本 124J

個々の環境問題に対症療法的に解決することは、それ以外の問題解決にはつながらなければいか、却って加速させる可能性もある。自然と人間社会が共に持続可能なものとなるためには、人間がこれまで築いてきたライフスタイル、社会のルール、産業を全体的かつ根本的に見直し、変革していく必要があると思う。

國松 善次、前滋賀県庁知事、日本 127J

地球環境の破壊は人間の行為によるものが殆どと思われまます。各国の行政は地球環境を守るための教育、啓蒙をさらに充実し、実施するべきだと思います。

M、毎日新聞社、日本 130J

異常気象、水問題、食糧問題等地球規模の諸問題が直接的にも間接的にもより実感できる状況が顕著になってきていることを踏まえ、次世代・未来のために、一人でも多くの方が省エネ等身近なライフスタイルの見直し・改善に、物理的時間より生物的時間に重点を置いて着手・実践することがベースと考える。

M、中部電力(株)、日本 137J

温暖化問題は非常に重要な取組み課題だが、急務とすべきは世界の水問題の解決と考える。水に起因する子供を中心とした病氣～死者の数を減らすこと。さらには農業への影響（食料の不足）が、食物輸入国である日本にとって、極めて近い将来の重大事。

公文 正人、サントリー(株)環境部部長、日本 141J

クールビズでやった気になっているように感ぜられるが、我が国政府はもちろんのこと経済界、学界をふくめてグローバルな観点から取り組みを強化する必要がある。その際、米国、中国を如何に対策に取り組みように仕向けるかが最重要課題と考え、我が国の両国に対する発言及び説得も含めた対応戦略を強化する必要性を痛感する。

山口 務、(財)電気技術者試験センター理事長、日本 143J

京都での環境会議から9年。京都議定書が確定する方向で事態は動いていますが、排出取引等のシステムは活用され始めても環境問題そのものの根本的解決までの道のりは、まだまだ先の見えぬ気がします。中国の発展に伴う産業公害の大発生、そして日本海の危機、戦乱に伴う環境破壊(人格破壊)の現実、環境問題が小手先の机上の利害貸借で解決するものではないことを教えています。国の枠を超えての地球解決での取り組みに対する幅広い認識が一層求められる気がします。

古市 倫義、日本原子力発電(株)社長室 OSC 次長、日本 150J

中国、インドなどを中心に成長する巨大人口国の環境保全活動が不可欠。先進国の生活のムダの排除も必須、もったいない、かわいそう、ほどこしの普及。

樋口 世喜夫、(社)自動車技術会総務常務理事、日本 153J

現在の資本主義経済の下では、地球環境問題は解決できないのではないかと。人類と生物の生存環境の悪化を防止するための経済システム(環境経済)を真剣に考える必要があると考える。

鹿島 亨、三菱マテリアル(株)環境センター技術主幹、日本 156J

砂漠化が進行し、水や食料不足による貧困がテロなどの原因となり、戦争という大きな環境破壊を齎していることは、残念な事実だと思います。サブサハラ等砂漠化している地域などの水・食料・電気等の安定供給の実現は待たなしと言えると思います。一方、情報公開が不十分な国では、環境汚染が隠されて大きく汚染地域が拡大してから皆が気づくという現実があるようです。昨今、環境意識が急速に高まりつつある原油国等とも協力して、地球全体で例外なくバランスの良いグローバルな国際協力が、更に必要となっていて来ていると感じています。

奥村 直士、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）産業技術・農水産部付き原油国関連事業専門家、日本 165J

エネルギー、水、鉱物資源など、人類の持続可能性のために必要な資源の有限性・希少性についての認識を、長期的な様々なシナリオを冷静かつ中立的に(=ドグマティックに誰かの責任を追及するのではなく)議論しつつ、先進国・途上国を問わず、共有化していく必要がある。

井内 摂男、経済産業省リサイクル推進課課長、日本 170J

最近の異常気象・自然災害、常々、地球温暖化の影響の現れと感じています。しかし社会的には、そういった認識や危機感に乏しいと思いますが、如何でしょうか？公的機関、教育現場、マスコミなどにもっと積極的な広報、教育活動が望まれます。

水谷 勉、日本 195J

我が国における地球環境問題、(例えば、エネルギー)については長期的な戦略をたてて推進すべきもの。この際に注目すべきは、中国とインドの食糧及びエネルギー問題ではないか。特に中国は豊かな外貨準備をバックに世界の資源を抑えにかかっていると感じている。我が国は、自前のクリーンなエネルギーをどう確保するのか、もう一度よく考える必要がある。

藤本 潔、農林水産省環境政策課課長、日本 200J

地球環境は有限であることを認識し、現在のライフスタイルや成長を前提とする考え方を見直す為、積極的に環境教育に取り組むとともに、税制等を通じて環境に優しいライフスタイルを実践することが高い経済的なメリットにつながるような施策を講じる必要がある。日本の公害問題の経験や優れた省エネ技術を中国やインド等今後の地球環境に大きな影響を与える国々へ移転する等により、我が国が地球環境問題にリーダーシップを発揮できるような国際貢献を行うことが重要である。

M、独立行政法人農林水産消費技術センター、日本 242J

気候変動をはじめ、地球環境は増々悪化しているにも関わらず、グローバルにもローカルにも地球環境問題に対する関心はマンネリ化し、薄れてきているように感じます。例えば、戦乱や海洋生物のアンバランス化、自然災害の激化、その他、地球環境問題としての視点から、考え、行動すべきことは山積みなのに、20世紀的全世界が注目するような活発な動きが見られなくなり、一方、山積み問題の枝分かれが専門化し、科学技術面などでは経済活動的に進展はして来ているもの、全般的には温暖化と貧困、人口問題等に関心が集約されてきてしまっているようです。特に先進国はコンパクトシティ、コンパクトライフ等新しい概念の確立を推進していくべきでしょう。

今井 通子、(株)ル・ベルソー代表取締役、日本 278J

地球環境問題、特に温暖化問題は重要な課題です。但し、解決には30年～100年かかる問題。中長期ビジョンを持って方針を決めないと京都議定書のような効力の期待できぬ物となってしまいます。サステナビリティの観点より、プライオリティーを付けた環境取り組みの世界的コンセンサスを取ることが重要と考えます。

M、シャープ(株)、日本 300J

WHOと環境問題についてもっと議論されるべきで、強力なWEOが必要です。

織田 創樹、ワールドウォッチジャパン、日本 303J

紛争、戦争とともに、持てる国の人々が日常何気なく行っている過剰な消費活動が、圧倒的な貧困を含む様々な環境問題の原因になっていると考えます。個々の問題の解決と同時に、地球とは、人間とは、真の豊かさとは何かを考え、世界は自分とつながっている、未来は今と繋がっているということを認識する教育の必要性を思わずにはいられません。子供や若い人に押し付けるのではなく、大人こそ学ぶべき。

稲場 紀久雄、大阪経済大学人間科学部教授、日本 305J

V. データブック

データ(問3)

問3-1-1 (地球温暖化問題)	日本	北米	西欧	先進アジア	その他アジア	中南米	アフリカ	オセアニア	東欧・旧ソ連	中東	海外合計	全体	先進地域	途上地域	その他地域
1.緊急の環境問題ではない① 温暖化の科学的根拠があいまいである	1%	4%	1%	0%	11%	0%	5%	5%	8%	0%	4%	3%	1%	7%	5%
1.緊急の環境問題ではない② 温暖化の影響は限定的である	0%	0%	1%	0%	6%	4%	3%	0%	11%	5%	3%	2%	0%	4%	6%
1.緊急の環境問題ではない③ 地球全体として温暖化のほう が望ましい	0%	0%	3%	0%	4%	0%	0%	0%	8%	0%	2%	1%	1%	2%	4%
2.地球温暖化は今後影響を及 ぼす可能性があり対応を検討し ておくのが望ましい	20%	18%	9%	19%	30%	0%	11%	23%	25%	10%	17%	18%	18%	18%	20%
3.地球温暖化は重要かつ緊急 な環境問題でありすぐに対策を 講じる必要がある	79%	76%	81%	81%	49%	91%	70%	73%	47%	81%	71%	75%	79%	65%	63%
不明	0%	2%	4%	0%	0%	4%	11%	0%	0%	5%	3%	2%	1%	4%	1%

問3-1-2

1.海面上昇による島嶼国、沿岸 部の水没	43%	30%	37%	35%	45%	29%	50%	57%	27%	26%	37%	40%	40%	43%	36%
2.生態系の変動	27%	41%	48%	51%	43%	52%	30%	24%	46%	53%	44%	35%	33%	41%	41%
3.異常気象の多発・天候の激化 (台風・ハリケーン等の強化)	58%	52%	56%	70%	50%	71%	50%	52%	69%	26%	56%	57%	58%	55%	52%
4.砂漠化、土壌劣化の進行	25%	20%	22%	27%	14%	19%	10%	0%	23%	21%	18%	22%	24%	14%	15%
5.水資源への悪影響	9%	15%	11%	5%	14%	5%	13%	33%	8%	16%	13%	11%	10%	12%	18%
6.農業、食糧生産への悪影響	32%	20%	13%	5%	17%	5%	20%	10%	19%	5%	13%	23%	26%	15%	12%
7.その他	1%	4%	2%	3%	5%	0%	0%	5%	4%	0%	3%	2%	1%	2%	3%
不明	4%	13%	16%	0%	26%	14%	33%	14%	35%	32%	19%	12%	6%	26%	27%

問3-1-3

1.京都議定書が守られることで 地球温暖化は防止される	1%	0%	0%	0%	8%	4%	5%	0%	8%	10%	3%	2%	0%	6%	6%
2.京都議定書を達成しても地球 温暖化は続く	18%	10%	7%	14%	8%	4%	0%	23%	19%	10%	10%	13%	15%	4%	18%
3.京都議定書の目標達成は困 難で地球温暖化が続く	18%	12%	11%	5%	13%	22%	16%	5%	11%	29%	13%	15%	16%	16%	14%
4.京都議定書は通過点であり、 さらなる各国間協定ができて初 めて地球温暖化は防止できる	62%	69%	71%	78%	68%	61%	73%	64%	56%	43%	67%	65%	65%	68%	54%
5.その他	1%	4%	7%	3%	4%	4%	3%	9%	0%	5%	4%	3%	2%	4%	4%
不明	1%	4%	3%	0%	0%	4%	3%	0%	6%	5%	3%	2%	2%	2%	4%

問3-2-1 (貧困問題)

1.現状より大分改善できる	14%	41%	66%	16%	38%	52%	49%	59%	33%	24%	44%	30%	25%	44%	38%
2.現状維持が精一杯	32%	10%	3%	35%	17%	4%	5%	0%	17%	10%	11%	21%	25%	11%	10%
3.現状より悪化する	52%	43%	27%	49%	23%	43%	30%	27%	36%	57%	35%	43%	47%	29%	39%
4.貧困問題はない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%
不明	2%	6%	4%	0%	23%	0%	14%	9%	14%	10%	9%	6%	2%	15%	11%

問3-2-2

1.人口の増加	13%	33%	16%	0%	15%	35%	8%	32%	25%	19%	21%	35%	40%	17%	25%
2.人的資源への投資の不足(教 育を受ける機会の喪失等)	4%	0%	9%	0%	8%	17%	5%	14%	11%	0%	9%	13%	14%	9%	9%
3.政治的・経済的環境	11%	27%	27%	0%	15%	17%	24%	14%	25%	24%	27%	29%	32%	19%	22%
4.南北間格差	3%	6%	11%	0%	17%	9%	32%	5%	6%	5%	13%	19%	22%	20%	5%
5.地域的要因(劣悪な自然環 境・資源不足)	0%	4%	3%	0%	2%	0%	3%	0%	0%	0%	5%	13%	17%	2%	0%
6.戦争・武力紛争	3%	10%	6%	0%	4%	9%	3%	5%	3%	10%	9%	22%	29%	4%	5%
7.農業生産性の低迷(飢餓の原 因)	1%	4%	1%	0%	2%	0%	3%	5%	0%	0%	2%	7%	9%	2%	1%
8.その他	1%	2%	7%	0%	0%	9%	0%	0%	3%	5%	3%	2%	2%	2%	3%
不明	15%	14%	20%	0%	38%	4%	22%	27%	28%	38%	21%	12%	5%	26%	30%

データ(問3)

問3-2-3	日本	北米	西欧	先進アジア	その他アジア	中南米	アフリカ	オセアニア	東欧・旧ソ連	中東	海外合計	全体	先進地域	途上地域	その他地域
1.大いに進展している	0%	0%	1%	0%	0%	4%	5%	0%	3%	0%	1%	1%	0%	3%	1%
2.ある程度進展している	10%	24%	24%	24%	36%	17%	19%	32%	22%	14%	25%	18%	15%	27%	23%
3.どちらとも言えない	21%	12%	9%	32%	26%	17%	35%	14%	36%	24%	22%	22%	19%	27%	27%
4.殆ど進展していない	55%	49%	49%	38%	13%	35%	27%	36%	22%	29%	34%	44%	52%	22%	28%
5.全く進展していない	12%	12%	14%	5%	6%	26%	5%	14%	17%	19%	12%	12%	12%	10%	16%
不明	1%	2%	3%	0%	19%	0%	8%	5%	0%	14%	6%	3%	1%	12%	5%

問3-3-1 (エネルギー問題)

1.エネルギーの多消費(浪費)	46%	73%	39%	46%	19%	9%	8%	36%	19%	24%	33%	39%	48%	13%	25%
2.エネルギー源の構成比率の偏り(例:化石燃料への過大な依存)	21%	14%	26%	27%	15%	30%	8%	18%	19%	10%	19%	20%	22%	16%	16%
3.エネルギーの供給量の不足	2%	2%	1%	3%	6%	4%	11%	0%	3%	5%	4%	3%	2%	7%	3%
4.エネルギーインフラの貧弱さ	1%	0%	3%	0%	13%	0%	5%	0%	8%	0%	4%	3%	1%	8%	4%
5.利便性の高いエネルギー(電力、ガス、石油)のコストが高い	5%	4%	6%	22%	15%	22%	27%	14%	17%	14%	14%	10%	6%	20%	15%
6.再生可能なエネルギーの利用が不十分	19%	6%	19%	0%	19%	17%	24%	18%	28%	24%	17%	18%	16%	20%	24%
7.その他	3%	0%	4%	3%	4%	9%	5%	9%	0%	0%	3%	3%	3%	5%	3%
不明	3%	0%	3%	0%	9%	9%	11%	5%	6%	24%	6%	4%	2%	10%	10%

問3-3-2

1.過剰である	46%	51%	34%	49%	2%	4%	0%	36%	19%	19%	25%	35%	45%	2%	24%
2.丁度良い	40%	33%	47%	27%	21%	52%	27%	41%	47%	43%	36%	38%	39%	29%	44%
3.不足気味である	11%	16%	10%	22%	57%	30%	35%	18%	31%	29%	27%	20%	13%	44%	27%
4.大変不足している(経済に支障がある)	2%	0%	4%	3%	21%	9%	35%	5%	3%	10%	10%	6%	2%	23%	5%
不明	1%	0%	4%	0%	0%	4%	3%	0%	0%	0%	1%	1%	1%	2%	0%

問3-3-3

1.50%減以下	15%	41%	30%	3%	19%	17%	27%	41%	11%	24%	24%	20%	19%	21%	23%
2.20%減	71%	41%	41%	84%	40%	43%	27%	36%	47%	38%	44%	57%	64%	36%	42%
3.同じくらいは欲しい	13%	14%	23%	14%	34%	30%	32%	23%	31%	24%	25%	19%	14%	33%	27%
4.2倍は欲しい	0%	0%	0%	0%	6%	9%	11%	0%	8%	0%	3%	2%	0%	8%	4%
5.どうしても10倍は欲しい	0%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	1%	0%	0%	0%	1%
不明	2%	2%	6%	0%	2%	0%	3%	0%	0%	14%	3%	2%	2%	2%	4%

問3-3-4

1.原子力	34%	22%	27%	30%	9%	0%	8%	18%	39%	10%	20%	27%	32%	7%	25%
2.風力	6%	8%	9%	8%	8%	9%	5%	14%	3%	14%	8%	7%	6%	7%	9%
3.太陽光発電	32%	33%	27%	51%	42%	35%	46%	45%	22%	48%	37%	35%	33%	42%	35%
4.バイオマス	13%	8%	11%	0%	15%	13%	14%	0%	14%	10%	10%	12%	11%	14%	9%
5.水力	7%	8%	11%	5%	17%	22%	14%	5%	3%	0%	10%	8%	7%	17%	3%
6.その他	1%	14%	10%	5%	6%	9%	3%	14%	6%	0%	8%	5%	4%	5%	6%
不明	7%	6%	4%	0%	4%	13%	11%	5%	14%	19%	7%	7%	6%	8%	13%

問3-4-1 (生態系・生物多様性の保全・再生問題)

1.生物生息地の減少(含:森林破壊、農地用地開拓)	86%	94%	76%	84%	47%	57%	65%	86%	53%	43%	69%	77%	85%	55%	59%
2.生物種の減少	38%	24%	30%	38%	17%	35%	16%	23%	25%	33%	26%	32%	35%	20%	27%
3.外来種の混入・侵入による従来の生態系の破壊	10%	29%	16%	14%	25%	13%	30%	27%	11%	5%	20%	15%	13%	24%	14%
4.人間活動による汚染物質(含:栄養素(肥料)汚染)の悪影響	51%	37%	34%	57%	47%	39%	49%	27%	58%	24%	42%	46%	48%	46%	41%
5.農水産資源の減少	11%	4%	23%	3%	13%	26%	14%	18%	14%	19%	14%	13%	12%	16%	16%
6.その他	1%	4%	3%	0%	0%	0%	3%	0%	0%	5%	2%	1%	2%	1%	1%
不明	1%	2%	7%	0%	13%	4%	5%	9%	14%	24%	8%	5%	2%	9%	15%

データ(問3)

問3-4-2	日本	北米	西欧	先進アジア	その他アジア	中南米	アフリカ	オセアニア	東欧・旧ソ連	中東	海外合計	全体	先進地域	途上地域	その他地域
1.淡水資源の劣化、減少	7%	27%	20%	3%	17%	22%	19%	14%	11%	10%	17%	12%	11%	19%	11%
2.大気・水の品質の劣化	12%	12%	13%	38%	11%	30%	14%	5%	25%	14%	17%	15%	14%	16%	16%
3.地域的・局所的な異常気象の多発	9%	10%	10%	27%	11%	13%	19%	18%	22%	14%	15%	12%	11%	14%	19%
4.病虫害の異常発生	3%	0%	1%	0%	0%	4%	0%	5%	0%	0%	1%	2%	2%	1%	1%
5.種絶減速度の加速(生物多様性の減少)	52%	41%	37%	30%	26%	26%	32%	27%	22%	24%	31%	41%	47%	28%	24%
6.その他	0%	6%	4%	3%	0%	0%	0%	5%	6%	10%	3%	2%	2%	0%	6%
不明	16%	4%	14%	0%	34%	4%	16%	27%	14%	29%	16%	16%	13%	22%	22%

問3-4-3

1.自然現象としての気候変動	7%	8%	10%	22%	17%	22%	16%	9%	22%	14%	15%	11%	9%	18%	16%
2.人間による無秩序な土地開発	60%	55%	54%	27%	19%	30%	19%	41%	22%	29%	35%	47%	56%	21%	29%
3.人間による化学物質の大量使用、放出	15%	18%	14%	43%	32%	26%	41%	5%	42%	33%	28%	22%	18%	34%	29%
4.人間による生物の乱獲	8%	2%	4%	8%	4%	4%	5%	9%	3%	5%	5%	6%	7%	4%	5%
5.その他	1%	8%	7%	0%	2%	4%	5%	23%	0%	0%	5%	3%	3%	4%	6%
不明	8%	8%	10%	0%	26%	13%	14%	14%	11%	19%	13%	10%	8%	19%	14%

問3-4-4

1.大いに進展している	0%	0%	0%	0%	4%	0%	5%	0%	0%	0%	1%	1%	0%	4%	0%
2.ある程度進展している	5%	14%	17%	24%	51%	39%	30%	18%	42%	48%	30%	18%	10%	42%	37%
3.どちらとも言えない	24%	6%	14%	46%	26%	26%	35%	32%	33%	10%	24%	24%	22%	29%	27%
4.殆ど進展していない	54%	51%	47%	27%	4%	22%	16%	36%	8%	24%	28%	40%	51%	12%	20%
5.全く進展していない	16%	27%	16%	3%	6%	9%	3%	14%	8%	5%	11%	13%	16%	5%	9%
不明	1%	2%	6%	0%	9%	4%	11%	0%	8%	14%	6%	4%	2%	9%	8%

問3-5-1(人口問題)

1.発展途上国の人口の爆発的増加	92%	65%	70%	54%	92%	70%	68%	82%	69%	67%	71%	81%	83%	80%	72%
2.将来的に人口増加は止まると予想されるので、特に問題はない	4%	6%	14%	41%	4%	4%	8%	9%	22%	14%	14%	9%	9%	5%	16%
3.その他	2%	29%	11%	5%	4%	17%	19%	9%	6%	10%	12%	8%	7%	12%	8%
不明	2%	0%	4%	0%	0%	9%	5%	0%	3%	10%	3%	2%	2%	4%	4%

問3-5-2

1.貧困の増大	59%	52%	50%	59%	65%	77%	71%	68%	68%	67%	62%	60%	57%	69%	70%
2.都市のスラム化	12%	9%	25%	0%	35%	36%	15%	9%	18%	28%	21%	16%	13%	29%	18%
3.食糧不足	63%	20%	13%	5%	10%	9%	24%	23%	18%	17%	15%	39%	48%	14%	20%
4.自然環境の破壊	38%	57%	65%	27%	53%	41%	44%	41%	25%	28%	48%	43%	43%	48%	32%
5.大気・水質の汚染	7%	13%	7%	5%	10%	0%	6%	18%	14%	17%	10%	8%	7%	7%	17%
6.水不足	12%	20%	17%	0%	4%	9%	0%	14%	18%	17%	11%	11%	13%	4%	17%
7.疫病の流行	3%	9%	3%	0%	2%	0%	6%	5%	4%	0%	4%	3%	3%	3%	3%
8.経済力の低下	3%	4%	3%	0%	4%	18%	18%	5%	18%	11%	8%	6%	3%	11%	12%
9.その他	2%	7%	3%	0%	6%	0%	3%	0%	4%	0%	3%	3%	2%	4%	2%
不明	1%	2%	5%	5%	2%	5%	3%	0%	7%	0%	3%	2%	2%	3%	3%

問3-5-3

1.大いに進展している	1%	2%	0%	0%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	1%	1%	3%	0%
2.ある程度進展している	8%	27%	30%	27%	63%	18%	59%	23%	14%	29%	36%	22%	14%	52%	23%
3.どちらとも言えない	25%	16%	18%	32%	18%	23%	18%	14%	32%	19%	21%	23%	24%	19%	24%
4.殆ど進展していない	51%	33%	30%	36%	8%	32%	18%	41%	43%	14%	28%	39%	46%	16%	36%
5.全く進展していない	14%	14%	15%	5%	4%	18%	3%	14%	11%	24%	12%	13%	13%	7%	17%
不明	1%	2%	7%	0%	2%	9%	3%	0%	0%	0%	3%	2%	2%	4%	0%

データ(問4)

問4-1 酸性雨・大気汚染問題 (対象地域:先進アジア)

問4-1-1	1.酸性雨のみ	2.大気汚染のみ	3.酸性雨、大気汚染の両方	不明
先進アジア	0%	11%	89%	0%

問4-1-2-1	1.森林の破壊、森林生態系への影響	2.農産物への影響	3.水資源への影響、水産物への影響	4.建造物・遺跡などの侵食	5.人体への直接被害	6.その他	不明
先進アジア	70%	22%	22%	11%	49%	3%	3%

問4-1-2-2	1.他国で発生する汚染源	2.自国内の火力発電、工場のばい煙など	3.自動車の排気ガス	4.その他	不明
先進アジア	27%	22%	49%	0%	3%

問4-1-2-3	1.大いに進展している	2.ある程度進展している	3.どちらとも言えない	4.殆ど進展していない	5.全く進展していない	不明
先進アジア	0%	11%	43%	30%	0%	16%

問4-1-3-1	1.他国で発生する汚染源	2.自国内の火力発電、工場のばい煙など	3.自動車の排気ガス	4.その他	不明
先進アジア	11%	16%	73%	0%	0%

問4-1-3-2	1.大いに進展している	2.ある程度進展している	3.どちらとも言えない	4.殆ど進展していない	5.全く進展していない	不明
先進アジア	0%	22%	32%	41%	0%	5%

問4-2 貧困問題(対象地域:その他アジア、中南米、アフリカ)

問4-2-1	1.人口の増加	2.人的資源への投資の不足(教育を受ける機会の喪失等)	3.政治的・経済的環境	4.南北間格差	5.地域的要因(劣悪な自然環境・資源不足)	6.戦争・武力紛争	7.農業生産性の低迷(飢餓の原因)	8.その他	不明
その他アジア	13%	19%	11%	2%	6%	4%	2%	0%	43%
中南米	4%	26%	43%	0%	0%	0%	0%	9%	17%
アフリカ	8%	14%	32%	3%	8%	3%	3%	5%	24%

問4-2-2	1.劣悪な生活環境	2.飢餓と栄養不足	3.経済発展阻害	4.犯罪の増加	5.その他	不明
その他アジア	49%	6%	30%	8%	0%	8%
中南米	45%	15%	15%	20%	0%	5%
アフリカ	16%	41%	27%	3%	8%	5%

問4-2-3	1.大いに進展している	2.ある程度進展している	3.どちらとも言えない	4.殆ど進展していない	5.全く進展していない	不明
その他アジア	8%	55%	9%	23%	2%	4%
中南米	4%	22%	4%	39%	26%	4%
アフリカ	8%	27%	11%	35%	11%	8%

問4-2-4	1.現状より大分改善できる	2.現状維持が精一杯	3.現状より悪化する	4.貧困問題は無い	不明
その他アジア	38%	9%	40%	2%	11%
中南米	35%	17%	43%	0%	4%
アフリカ	46%	8%	35%	0%	11%

データ(問4)

問4-3.海洋および淡水資源問題の課題(対象地域:オセアニア)

問4-3-1	1.有害化学物質による海洋汚染	2.地球温暖化による海洋生態系の変化	3.漁業資源の減少	4.淡水資源の劣化、枯渇	5.その他	不明
オセアニア	9%	45%	64%	73%	0%	5%

問4-3-2	1.漁業資源減少による漁業へのダメージ	2.サンゴ礁の破壊による漁業、観光資源の劣化	3.大陸棚の砂漠化	4.有害化学物質汚染水産物による人体への悪影響	5.その他	不明
オセアニア	36%	32%	14%	5%	5%	9%

問4-3-3	1.大いに進展している	2.ある程度進展している	3.どちらとも言えない	4.殆ど進展していない	5.全く進展していない	不明
オセアニア	5%	45%	9%	32%	9%	0%

問4-4 森林減少問題(対象地域:中南米)

問4-4-1	1.異常気象、気候変化	2.土壌侵食、土砂災害、河川の氾濫	3.動植物生態系の変化	4.漁業(湖沼、海)への悪影響、漁獲量減少	5.その他	不明
中南米	10%	75%	10%	0%	5%	0%

問4-4-2	1.木材の過伐採、違法伐採	2.開発計画(鉱業、道路建設)	3.農業用地としての利用拡大	4.不十分な植林計画、あるいは森林管理	5.森林火災	6.その他	不明
中南米	55%	35%	60%	30%	0%	10%	0%

問4-4-3	1.大いに進展している	2.ある程度進展している	3.どちらとも言えない	4.殆ど進展していない	5.全く進展していない	不明
中南米	0%	25%	15%	35%	25%	0%

問4-5.砂漠化・土壌劣化問題の課題(対象地域:中東、アフリカ)

問4-5-1	1.水源の減少、劣化	2.灌漑用水の塩水化、土地の塩化	3.降砂の増大	4.その他	不明
中東	33%	24%	14%	10%	19%
アフリカ	57%	11%	5%	14%	14%

問4-5-2	1.市民生活への脅威	2.農業生産の減少	3.人間生活圏の縮小	4.異常気象の増大	5.その他	不明
中東	10%	38%	14%	14%	0%	24%
アフリカ	19%	57%	3%	8%	5%	8%

問4-5-3-A	1.過放牧	2.過剰採取	3.無計画な開発	4.農民の農地放棄及び都市への流入	5.その他	不明
中東	24%	0%	52%	5%	0%	19%
アフリカ	22%	14%	30%	8%	16%	11%

問4-5-3-B	1.風食	2.水食	3.気候変動	4.その他	不明
中東	29%	10%	38%	5%	19%
アフリカ	16%	14%	49%	16%	5%

問4-5-4	1.大いに進展している	2.ある程度進展している	3.どちらとも言えない	4.殆ど進展していない	5.全く進展していない	不明
中東	5%	24%	14%	29%	19%	10%
アフリカ	0%	35%	24%	32%	3%	5%

データ(問4)

問4-6.廃棄物問題の課題(対象地域:日本、西欧、先進アジア、その他のアジア、アフリカ、東欧・旧ソ連、中東)

問4-6-1	1.生活廃棄物 (都市ごみなど)	2.産業廃棄物	3.自動車などの大型廃棄物	4.有毒・有害物質	5.放射性廃棄物	6.その他	不明
日本	64%	73%	9%	30%	16%	1%	1%
西欧	47%	44%	23%	46%	23%	1%	6%
先進アジア	51%	70%	5%	54%	16%	0%	0%
その他アジア	81%	60%	9%	25%	2%	0%	2%
アフリカ	81%	51%	8%	24%	3%	5%	5%
東欧・旧ソ連	64%	53%	28%	28%	17%	3%	3%
中東	52%	43%	33%	24%	14%	10%	10%

問4-6-2	1.生活安全性への脅威	2.生活環境の劣化	3.健康への悪影響	4.経済発展の阻害	5.その他	不明
日本	26%	43%	16%	5%	3%	7%
西欧	6%	53%	21%	4%	1%	14%
先進アジア	35%	30%	35%	0%	0%	0%
その他アジア	8%	47%	36%	4%	2%	4%
アフリカ	3%	24%	62%	0%	0%	11%
東欧・旧ソ連	8%	36%	44%	3%	3%	6%
中東	5%	19%	62%	0%	5%	10%

問4-6-3	1.リサイクルが進んでいる	2.一部リサイクルされている	3.始まったばかり	4.すべてゴミとして棄てられリサイクルされていない	5.その他	不明
日本	21%	56%	21%	0%	1%	1%
西欧	34%	44%	14%	0%	0%	7%
先進アジア	14%	38%	46%	3%	0%	0%
その他アジア	6%	40%	36%	19%	0%	0%
アフリカ	0%	24%	49%	14%	5%	8%
東欧・旧ソ連	3%	39%	47%	8%	0%	3%
中東	0%	38%	33%	19%	5%	5%

問4-6-4	1.大いに進展している	2.ある程度進展している	3.どちらとも言えない	4.殆ど進展していない	5.全く進展していない	不明
日本	3%	64%	22%	9%	0%	1%
西欧	11%	61%	10%	10%	0%	7%
先進アジア	11%	46%	27%	16%	0%	0%
その他アジア	4%	58%	11%	23%	4%	0%
アフリカ	3%	22%	27%	38%	3%	8%
東欧・旧ソ連	6%	58%	6%	31%	0%	0%
中東	0%	48%	10%	38%	5%	0%

データ(問4)

問4-7.都市・交通問題(対象地域:日本、北米、西欧、先進アジア、東欧・旧ソ連、中東)

問4-7-1	1.自動車の過密による渋滞・交通障害	2.公共交通・輸送インフラ(道路網・鉄道網)の欠如・整備不足	3.公共交通利用者過密による利便性・快適性の低下	4.輸送車両などによる公害問題(大気汚染、騒音など)	5.輸送手段稠密による災害・交通事故の多発	6.特に大きな交通問題はない	7.その他	不明
日本	75%	33%	17%	46%	13%	1%	6%	1%
北米	57%	78%	10%	31%	2%	0%	10%	2%
西欧	66%	46%	10%	57%	6%	0%	4%	4%
先進アジア	59%	24%	11%	78%	14%	0%	0%	0%
東欧・旧ソ連	53%	64%	8%	36%	25%	0%	6%	0%
中東	43%	71%	14%	24%	14%	0%	5%	5%

問4-7-2	1.廃棄物の増大	2.大気汚染および騒音	3.交通渋滞・交通機関の過密による快適性・利便性低下	4.緑や自然空間の消失	5.都市のスプロール化(都市の郊外発展にともなう都市の環境劣化)	6.上下水道・衛生設備の整備	7.その他	不明
日本	64%	26%	32%	51%	15%	3%	2%	1%
北米	35%	22%	10%	24%	80%	16%	4%	0%
西欧	29%	40%	19%	31%	51%	14%	3%	4%
先進アジア	11%	65%	38%	32%	49%	0%	0%	0%
東欧・旧ソ連	42%	44%	17%	47%	31%	17%	3%	0%
中東	38%	24%	29%	24%	24%	29%	0%	14%

問4-7-3	1.エネルギー供給	2.水の供給	3.下水処理	4.交通インフラの整備(鉄道網・道路網)	5.廃棄物処理施設の整備	6.その他	不明
日本	29%	13%	27%	46%	72%	7%	1%
北米	45%	31%	12%	69%	29%	8%	2%
西欧	37%	20%	7%	73%	46%	3%	4%
先進アジア	30%	5%	24%	76%	59%	0%	0%
東欧・旧ソ連	22%	17%	28%	64%	58%	0%	3%
中東	0%	38%	24%	57%	38%	5%	14%

問4-7-4	1.大いに進展している	2.ある程度進展している	3.どちらとも言えない	4.殆ど進展していない	5.全く進展していない	不明
日本	0%	42%	38%	17%	3%	1%
北米	2%	22%	12%	53%	10%	0%
西欧	3%	41%	19%	31%	1%	4%
先進アジア	3%	38%	43%	14%	0%	3%
東欧・旧ソ連	3%	36%	17%	39%	6%	0%
中東	0%	38%	10%	33%	0%	19%

データ(問4)

問4-8.生態系・生物多様性問題の課題(対象地域:西欧、中南米、オセアニア、東欧・旧ソ連)

問4-8-1	1.生物生息地の減少(含:森林破壊、農地用地開拓)	2.生物種の減少	3.外来種の混入・侵入による従来の生態系の破壊	4.人間活動による汚染物質(含:栄養素(肥料)汚染)の悪影響	5.農水産資源の減少	6.その他	不明
西欧	54%	30%	14%	49%	21%	7%	9%
中南米	70%	13%	39%	30%	17%	9%	0%
オセアニア	41%	14%	59%	36%	23%	0%	14%
東欧・旧ソ連	50%	19%	19%	58%	8%	3%	14%

問4-8-2	1.淡水資源の劣化、減少	2.大気・水の品質の劣化	3.地域的・局所的な異常気象の多発	4.病害虫の異常発生	5.種絶滅速度の加速(生物多様性の減少)	6.その他	不明
西欧	10%	16%	21%	1%	30%	7%	14%
中南米	22%	17%	26%	0%	26%	0%	9%
オセアニア	27%	5%	14%	5%	18%	5%	27%
東欧・旧ソ連	11%	33%	14%	0%	14%	8%	19%

問4-8-3	1.自然現象としての気候変動	2.人間による無秩序な土地開発	3.人間による化学物質の大量使用、放出	4.人間による生物の乱獲	5.その他	不明
西欧	9%	41%	26%	7%	9%	9%
中南米	4%	52%	17%	9%	9%	9%
オセアニア	14%	50%	9%	9%	5%	14%
東欧・旧ソ連	6%	44%	31%	8%	0%	11%

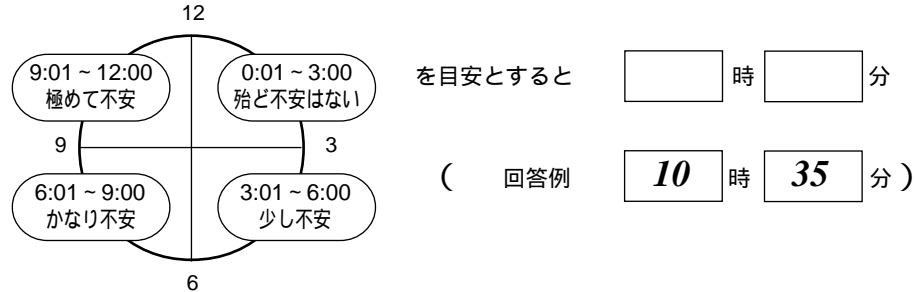
問4-8-4	1.大いに進展している	2.ある程度進展している	3.どちらとも言えない	4.殆ど進展していない	5.全く進展していない	不明
西欧	6%	51%	10%	24%	4%	4%
中南米	0%	35%	9%	39%	13%	4%
オセアニア	9%	55%	5%	18%	14%	0%
東欧・旧ソ連	3%	44%	11%	31%	8%	3%

VI. 調査票

I. 継続調査項目

問1 人類存続の危機に対する認識 環境危機時計

問1-1 あなたは現在の地球環境の悪化ともなう人類存続の危機の程度をどのように感じていますか？時計の針に例えて0：01～12：00の範囲で 時 分と答えてください。



問1-2 あなたは上記時刻を記入したとき、地球環境のどのような状況を主に念頭において記入しましたか。次の中から念頭においた項目を3つ以内で選んで をつけて下さい。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 地球環境問題全般 | 2. 地球温暖化 |
| 3. 大気汚染、水質汚濁、河川・海洋汚染 | 4. 水の枯渇、食糧問題 |
| 5. 森林破壊、砂漠化、生物多様性の減少 | 6. 市民のライフスタイル、廃棄物問題 |
| 7. 環境問題と経済・貿易活動 | 8. 人口・貧困・女性の地位問題 |
| 9. その他 () | |

問2 アジェンダ21の進捗状況

1992年に開催された地球サミットで「環境と開発に関する行動計画」として「アジェンダ21」が採択されて13年になります。「アジェンダ21」のうち、次の10項目について、あなたの国での最近1年間の進捗状況をどのように判断しますか。各項目について、スケール上の記号を で囲んでください。

大いに進展
ある程度進展
どちらとも言えない
殆ど進展せず
全く進展せず

- | | | | | | |
|------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| (1) 環境教育の推進 | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |
| (2) 自治体や市民の参画 | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |
| (3) 科学・技術の貢献 | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |
| (4) リサイクルシステムの構築 | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |
| (5) 森林資源保全対策 | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |
| (6) 生物多様性の保全 | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |
| (7) 地球温暖化防止対策 | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |
| (8) 人口・貧困問題 | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |
| (9) ライフスタイルの変更 | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |
| (10) 産業界の環境対策 | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |

II. 本年度焦点をあてた項目

昨年度、「取り組むべき地球環境問題」についてグローバルな課題とローカルな課題について質問しましたが、その回答に基づき、問3では全回答者共通のグローバルな課題について、問4では地域別に特化したローカルな課題についておたずねします。

問3 取り組むべき地球環境問題 グローバルな環境問題【全回答者共通】

昨年度の回答者はグローバルな地球環境問題として、「地球温暖化を含む気候変動・変化」「貧困問題」「エネルギー問題」「生態系・生物多様性の保全・再生問題」「人口問題」の5項目に取り組むべき優先課題とし

て挙げました。この5つの課題それぞれについて回答をお願いします。なお、問3-1-2、問3-2、問3-4につきましては、グローバルな視点と共にあなたの住む地域・国のローカルな状況についても回答をお願いします。

問3-1 地球温暖化問題

問3-1-1 あなたは地球温暖化についてどのように考えますか。次の中からあてはまるものを1つ選んで をつけてください。なお、 を選んだ方は、その理由をその下から選んで をつけてください。

地球温暖化は緊急の環境問題ではない。その理由として：

- 1) 温暖化の科学的根拠があいまいである
- 2) 温暖化の影響は限定的である
- 3) 地球全体として温暖化のほうが望ましい

地球温暖化は今後影響を及ぼす可能性がある所以对応を検討しておくのが望ましい。

地球温暖化は重要かつ緊急な環境問題であり、すぐに対策を講じる必要がある。

問3-1-2 前問で または を選ばれた方におたずねします。地球温暖化はどのような形で影響を与えますか。懸念される影響についてグローバルな視点およびあなたの地域・国からの視点からみてもっとも重要と思われる項目をそれぞれ2つずつ選んで表に をつけてください。

グローバルに懸念される影響
あなたの地域・国において懸念される影響

1. 海面上昇による島嶼国、沿岸部の水没		
2. 生態系の変動		
3. 異常気象の多発・天候の激化（台風・ハリケーン等の強大化）		
4. 砂漠化、土壌劣化の進行		
5. 水資源への悪影響		
6. 農業、食糧生産への悪影響		
7. その他（ ）		

問3-1-3 温室効果ガス削減を目指す京都議定書が発効しました。温暖化防止に向けた京都議定書の効力をどのように評価しますか。次の中からあてはまるものを1つ選んで をつけてください。

- 1. 京都議定書が守られることで地球温暖化は防止される
- 2. 京都議定書を達成しても地球温暖化は続く
- 3. 京都議定書の目標達成は困難で地球温暖化が続く
- 4. 京都議定書は通過点であり、さらなる各国間協定ができて初めて地球温暖化は防止できる
- 5. その他（ ）

問3-2 貧困問題

グローバルな課題およびあなたの地域・国における課題としてそれぞれ回答してください。

問3-2-1 貧困問題はグローバルにも、それが起こっている地域・国においても課題です。あなたは貧困問題の今後をどのように考えますか。グローバルな課題としての視点からおよびあなたの地域・国における課題としての視点からあてはまる項目を1つ選んで表に をつけてください。

グローバルな課題としての視点から
あなたの地域・国における課題としての視点から

1. 現状より大分改善できる		
2. 現状維持が精一杯		
3. 現状より悪化する		
4. 貧困問題はない		

問3 - 2 - 2 貧困問題をもたらす要因は何と考えますか。グローバルな課題としての視点からおよびあなたの地域・国における課題としての視点からあてはまる項目をそれぞれ2つずつ選んで表に をつけてください。

グローバルな課題としての視点から
あなたの地域・国における課題としての視点から

1. 人口の増加		
2. 人的資源への投資の不足（教育を受ける機会の喪失等）		
3. 政治的・経済的環境		
4. 南北間格差		
5. 地域的要因（劣悪な自然環境・資源不足）		
6. 戦争・武力紛争		
7. 農業生産性の低迷（飢餓の原因）		
8. その他（ ）		

問3 - 2 - 3 あなたは貧困問題への対策の進捗状況をどのように捉えていますか。グローバルな課題としての視点からおよびあなたの地域・国における課題としての視点からあてはまる項目を1つずつ選んで表に をつけてください。

グローバルな課題としての視点で見えて
あなたの地域・国における課題としての視点で見えて

1. 大いに進展している		
2. ある程度進展している		
3. どちらとも言えない		
4. 殆ど進展していない		
5. 全く進展していない		

問3 - 3 エネルギー問題

問3 - 3 - 1 あなたの国における最も重要なエネルギー問題は何ですか。次の中からあてはまると思うものを1つ選んで をつけてください。

1. エネルギーの多消費（浪費）
2. エネルギー源の構成比率の偏り（例：化石燃料への過大な依存）
3. エネルギーの供給量の不足
4. エネルギーインフラの貧弱さ
5. 利便性の高いエネルギー（電力、ガス、石油）のコストが高い
6. 再生可能なエネルギーの利用が不十分
7. その他（ ）

問3 - 3 - 2 あなたの国全体としてのエネルギー供給量をどう考えますか。次の中からあてはまると思うものを1つ選んで をつけてください。

1. 過剰である
2. 丁度良い
3. 不足気味である
4. 大変不足している（経済に支障がある）

問3 - 3 - 3 あなたの国のエネルギー問題を考慮した場合、あなた個人の生活で消費するエネルギーの量をどのくらいとする覚悟がありますか。次の中から近いものを1つ選んで をつけてください。

1. 50%減以下
2. 20%減
3. 同じくらいは欲しい
4. 2倍は欲しい
5. どうしても10倍は欲しい

問3 - 3 - 4 化石燃料に替わるエネルギーとして、あなたの国では何が最も有効と考えますか。有効と思われる順にカッコ内に数字を記入してください。

1. 原子力 ()
2. 風力 ()
3. 太陽光発電 ()
4. バイオマス ()
5. 水力 ()
6. その他 () ()

問3 - 4 生態系・生物多様性の保全・再生問題
 グローバルな課題およびあなたの地域・国における課題としてそれぞれ回答してください。

問3 - 4 - 1 あなたは生態系・生物多様性の保全・再生問題で取り組むべき課題は何だと思えますか。グローバルな課題としての視点からおよびあなたの地域・国における課題としての視点から重要と思われる項目をそれぞれ2つずつ選んで表に をいれてください。

グローバルな課題

あなたの地域・国
 における課題

1. 生物生息地の減少（含：森林破壊、農業用地開拓）		
2. 生物種の減少		
3. 外来種の混入・侵入による従来の生態系の破壊		
4. 人間活動による汚染物質（含：栄養素（肥料）汚染）の悪影響		
5. 農水産資源の減少		
6. その他（ ）		

問3 - 4 - 2 前問であなたが生態系・生物多様性における問題として選んだ課題は何に最も影響を与えようと思えますか。グローバルな課題としての視点からおよびあなたの地域・国における課題としての視点からあてはまるものをそれぞれ1つずつ選んで表に をいれてください。

グローバルな課題
 の及ぼす影響

あなたの地域・国
 における課題が及ぼす影響

1. 淡水資源の劣化、減少		
2. 大気・水の品質の劣化		
3. 地域的・局所的な異常気象の多発		
4. 病害虫の異常発生		
5. 種絶滅速度の加速（生物多様性の減少）		
6. その他（ ）		

問3 - 4 - 3 あなたは生態系・生物多様性における問題をもたらしている主な原因は何だと考えますか。グローバルな課題としての視点からおよびあなたの地域・国における課題としての視点からあてはまるものをそれぞれ1つずつ選んで表に をいれてください。

グローバルな
 問題の原因

あなたの地域・国
 における問題の原因

1. 自然現象としての気候変動		
2. 人間による無秩序な土地開発		
3. 人間による化学物質の大量使用、放出		
4. 人間による生物の乱獲		
5. その他（ ）		

問3 - 4 - 4 あなたは生態系・生物多様性の保全・再生問題への対策の進捗状況をどのように捉えていますか。グローバルな課題およびあなたの地域・国における課題の進捗状況についてあてはまると思うものをそれぞれ1つずつ選んで表に をいれてください。

グローバルな進捗状況

あなたの地域・国
 における進捗状況

1. 大いに進展している		
2. ある程度進展している		
3. どちらとも言えない		
4. 殆ど進展していない		
5. 全く進展していない		

問3 - 5 人口問題

問3 - 5 - 1 あなたにとってグローバルに取り組むべき人口問題とは何ですか。次の中からあてはまると思うものを1つ選んでつけてください。

1. 発展途上国の人口の爆発的増加
2. 将来的に人口増加は止まると予想されるので、特に問題ではない(これを選ばれた方は、次の2つの質問を飛ばしてローカルな課題の質問(問4)へ)
3. その他()

問3 - 5 - 2 人口問題により引き起こされる影響で懸念されることは何ですか。次の中からあてはまると思うものを2つ選んでつけてください。

1. 貧困の増大
2. 都市のスラム化
3. 食糧不足
4. 自然環境の破壊
5. 大気・水質の汚染
6. 水不足
7. 疫病の流行
8. 経済力の低下
9. その他()

問3 - 5 - 3 あなたはグローバルな人口問題への対策の進捗状況をどのように捉えていますか。次の中からあてはまると思うものを1つ選んでつけてください。

1. 大いに進展している
2. ある程度進展している
3. どちらとも言えない
4. 殆ど進展していない
5. 全く進展していない

問4 取り組むべき地球環境問題 ローカルな環境問題

昨年度の「取り組むべき地球環境問題」についてそれぞれの地域におけるローカルな課題について質問した結果、取り組むべき課題の優先度は地域別に次のようになりました。

地域	第1優先課題	割合	第2優先課題	割合	第3優先課題	割合	(%)
日本	廃棄物	78	都市・交通	49	エネルギー	35	
先進アジア	廃棄物	80	都市・交通	70	酸性雨・大気	40	
東欧・旧ソ連	廃棄物	62	都市・交通	43	生態系	36	
中東	廃棄物	60	都市・交通	40	砂漠化・土壌	30	
西欧	都市・交通	63	廃棄物	42	生態系	41	
北米	都市・交通	57	地球温暖化	34	エネルギー	31	
アフリカ	貧困	51	廃棄物	31	砂漠化・土壌	28	
その他アジア	貧困	32	廃棄物	31	人口	29	
中南米	森林減少	50	貧困	44	生態系	31	
オセアニア	地球温暖化	50	生態系	46	海洋・水	31	

出典：2005年度アンケート報告書p13

問4 - 1 酸性雨・大気汚染問題 調査対象地域：先進アジア

問4 - 1 - 1 あなたの地域・国において問題となっているのは次のどちらですか。あてはまるものを1つ選んでつけて下さい。

1. 酸性雨(これを選ばれた方は 問2の質問へ)
2. 大気汚染(これを選ばれた方は 問3の質問へ)
3. 酸性雨と大気汚染(これを選ばれた方は 問2と問3の質問へ)

問4-1-2 前問で酸性雨を選択された方は下記の3つの設問にお答え下さい。

問4-1-2-1 あなたの地域・国において酸性雨が最も大きな影響を与えているのはどこですか。次の中からあてはまると思われるものを2つ選んで をつけて下さい。

1. 森林の破壊、森林生態系への影響
2. 農産物への影響
3. 水資源への影響、水産物への影響
4. 建造物・遺跡などの侵食
5. 人体への直接被害
6. その他 ()

問4-1-2-2 あなたの地域・国における酸性雨の原因は何だと思えますか。次の中からあてはまると思われるものを1つ選んで をつけて下さい。

1. 他国で発生する汚染源
2. 自国内の火力発電、工場のばい煙等など
3. 自動車の排気ガス
4. その他

問4-1-2-3 あなたの地域・国における酸性雨問題への対策の進展状況をどのように判断しますか。次の中からあてはまるものを1つ選んで をつけて下さい。

1. 大いに進展している
2. ある程度進展している
3. どちらとも言えない
4. 殆ど進展していない
5. 全く進展していない

問4-1-3 問1で大気汚染を選択された方は下記の設問にお答え下さい。

問4-1-3-1 あなたの地域・国の大気汚染の原因は何ですか。次の中からあてはまるものを1つ選んで をつけて下さい。

1. 他国で発生する汚染源
2. 自国内の火力発電、工場のばい煙等
3. 自動車の排気ガス
4. その他

問4-1-3-2 あなたの地域・国における大気汚染問題への対策の進展状況をどのように考えますか。次の中からあてはまるものを1つ選んで をつけて下さい。

1. 大いに進展している
2. ある程度進展している
3. どちらとも言えない
4. 殆ど進展していない
5. 全く進展していない

問4-2 貧困問題 調査対象地域：その他アジア、中南米、アフリカ

問4-2-1 あなたの地域・国において貧困問題をもたらす大きな要因は何だと思えますか。次の中からあてはまると思われるものを1つ選んで をつけて下さい。

1. 人口の増加
2. 人的資源への投資の不足（教育を受ける機会の喪失等）
3. 政治的・経済的環境
4. 南北間格差
5. 地域的要因（劣悪な自然環境・資源不足）
6. 戦争・武力紛争
7. 農業生産性の低迷（飢餓の原因）
8. その他 ()

問4-2-2 あなたの地域・国において貧困問題の最も大きな影響はどのようなところに現れていますか。次の中からあてはまると思われるものを1つ選んで をつけて下さい。

1. 劣悪な生活環境
2. 飢餓と栄養不足
3. 経済発展阻害
4. 犯罪の増加
5. その他

- 問4 - 2 - 3 あなたの地域・国における貧困問題への対策の進展状況をどのように判断しますか。次の中からあてはまるものを1つ選んで をつけて下さい。
1. 大いに進展している
 2. ある程度進展している
 3. どちらとも言えない
 4. 殆ど進展していない
 5. 全く進展していない
- 問4 - 2 - 4 あなたの地域・国において貧困問題は克服できると思いますか。次の中からあてはまると思われるものを1つ選んで をつけて下さい。
1. 現状より大分改善できる
 2. 現状維持が精一杯
 3. 現状より悪化する
 4. 貧困問題はない
- 問4 - 3 海洋および淡水資源問題 調査対象地域：オセアニア
- 問4 - 3 - 1 あなたの地域・国における「海洋および淡水資源問題」で取り組むべき課題は何だと思えますか。次の中からあてはまると思われるものを2つ選んで をつけて下さい。
1. 有害化学物質による海洋汚染
 2. 地球温暖化による海洋生態系の変化
 3. 漁業資源の減少
 4. 淡水資源の劣化、枯渇
 5. その他 ()
- 問4 - 3 - 2 あなたの地域・国における「海洋および淡水資源問題」はどのような影響を与えていると思えますか。次の中からあてはまると思われるものを1つ選んで をつけて下さい。
1. 漁業資源減少による漁業へのダメージ
 2. サンゴ礁の破壊による漁業、観光資源の劣化
 3. 大陸棚の砂漠化
 4. 有害化学物質汚染水産物による人体への悪影響
 5. その他
- 問4 - 3 - 3 あなたの地域・国における海洋および淡水資源の問題への対策の進展状況をどのように判断しますか。次の中からあてはまるものを1つ選んで をつけて下さい。
1. 大いに進展している
 2. ある程度進展している
 3. どちらとも言えない
 4. 殆ど進展していない
 5. 全く進展していない
- 問4 - 4 森林減少問題 調査対象地域：中南米
- 問4 - 4 - 1 あなたの地域・国において「森林減少」の影響が最も大きく現れているのはどの点ですか。次の中からあてはまると思われるものを1つ選んで をつけて下さい。
1. 異常気象、気候変化
 2. 土壌侵食、土砂災害、河川の氾濫
 3. 動植物生態系の変化
 4. 漁業（湖沼、海）への悪影響、漁獲量減少
 5. その他
- 問4 - 4 - 2 あなたの地域における「森林減少」の主要な原因は何だと思えますか。次の中からあてはまると思われるものを2つ選んで をつけて下さい。
1. 木材の過伐採、違法伐採
 2. 開発計画（鉱業、道路建設）
 3. 農業用地としての利用拡大
 4. 不十分な植林計画、あるいは森林管理
 5. 森林火災
 6. その他
- 問4 - 4 - 3 あなたの地域・国における森林減少問題への対策の進展状況をどのように判断しますか。次の中からあてはまるものを1つ選んで をつけて下さい。
1. 大いに進展している
 2. ある程度進展している
 3. どちらとも言えない
 4. 殆ど進展していない
 5. 全く進展していない

- 問4 - 5 砂漠化・土壌劣化問題 調査対象地域：アフリカ、中東
- 問4 - 5 - 1 あなたの地域・国において砂漠化・土壌劣化問題で取り組むべき最重要課題は何ですか。次の中からあてはまるものを1つ選んで をつけて下さい。
1. 水源の減少、劣化
 2. 灌漑用水の塩水化、土地の塩化
 3. 降砂の増大
 4. その他
- 問4 - 5 - 2 あなたの地域・国において砂漠化・土壌劣化問題の影響はどのような形で現れていますか。あるいは現れると思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選んで をつけて下さい。
1. 市民生活への脅威
 2. 農業生産の減少
 3. 人間生活圏の縮小
 4. 異常気象の増大
 5. その他 ()
- 問4 - 5 - 3 あなたの地域・国における砂漠化・土壌劣化問題の原因は何だと考えますか。あてはまると思われるものを1つ選んで をつけて下さい。
- A 人為的なもの
1. 過放牧
 2. 過剰採取
 3. 無計画な開発
 4. 農民の農地放棄及び都市への流入
 5. その他
- B やむを得ない自然現象による
1. 風食
 2. 水食
 3. 気候変動
 4. その他 ()
- 問4 - 5 - 4 あなたの地域・国における砂漠化・土壌劣化問題への対策の進展状況をどのように判断しますか。次の中からあてはまるものを1つ選んで をつけて下さい。
1. 大いに進展している
 2. ある程度進展している
 3. どちらとも言えない
 4. 殆ど進展していない
 5. 全く進展していない
- 問4 - 6 廃棄物問題 調査対象地域：日本、西欧、先進アジア、その他アジア、アフリカ、東欧・旧ソ連、中東
- 問4 - 6 - 1 廃棄物問題で特にあなたの国で優先的に取り組むべき課題は何だと思いますか。重要と思われる問題を次の中から2つ選んで をつけてください。
1. 生活廃棄物（都市ごみなど）
 2. 産業廃棄物
 3. 自動車などの大型廃棄物
 4. 有毒・有害物質
 5. 放射性廃棄物
 6. その他 ()
- 問4 - 6 - 2 廃棄物問題の与える影響で、あなたの国で最も大きなものは何だと思いますか。次の中からあてはまると思うものを1つ選んで をつけてください。
1. 生活安全性への脅威
 2. 生活環境の劣化
 3. 健康への悪影響
 4. 経済発展の阻害
 5. その他 ()
- 問4 - 6 - 3 環境と経済の両立した循環型社会作りを進めるため3R（Reduce, Reuse, Recycle）イニシアチブが国際的に提唱され運動が開始されました。この3Rのうち、あなたの国でのリサイクルに対する取り組みはどのレベルにあると思いますか。次の中からあてはまると思うものを1つ選んで をつけてください。
1. リサイクルが進んでいる
 2. 一部リサイクルされている
 3. 始まったばかり
 4. すべてゴミとして棄てられリサイクルされていない
 5. その他 ()

問4-6-4 あなたの国において、廃棄物問題への対策の進捗状況をどのように判断しますか。次の中からあてはまるものを1つ選んで をつけてください。

1. 大いに進展している
2. ある程度進展している
3. どちらとも言えない
4. 殆ど進展していない
5. 全く進展していない

問4-7 都市・交通問題 調査対象地域：日本、北米、西欧、先進アジア、東欧・旧ソ連、中東

問4-7-1 あなたの国において、交通問題で取り組むべき課題は何だと思えますか。重要と思われるものを次の中から2つ選んで をつけてください。

1. 自動車の過密による渋滞、交通障害
2. 公共交通・輸送インフラ（道路網・鉄道網）の欠如・整備不足
3. 公共交通利用者過密による利便性・快適性の低下
4. 輸送車両などによる公害問題（大気汚染、騒音など）
5. 輸送手段稠密による災害・交通事故の多発
6. 特に大きな交通問題はない
7. その他（ ）

問4-7-2 あなたの国での都市環境問題で取り組むべき課題は何だと思えますか。重要と思われるものを次の中から2つ選んで をつけてください。

1. 廃棄物の増大
2. 大気汚染および騒音
3. 交通渋滞・交通機関の過密による快適性・利便性低下
4. 緑や自然空間の消失
5. 都市のスプロール化（都市の郊外発展にともなう都心の環境劣化）
6. 上下水道・衛生設備の整備
7. その他（ ）

問4-7-3 あなたの国において都市環境問題に関係の深い都市インフラのうち、重視すべきと思われるものを次の中から2つ選んで をつけてください。

1. エネルギー供給
2. 水の供給
3. 下水処理
4. 交通インフラの整備（鉄道網・道路網）
5. 廃棄物処理施設の整備
6. その他（ ）

問4-7-4 あなたの国における都市・交通問題への対策の進捗状況をどのように判断しますか。次の中からあてはまるものを1つ選んで をつけてください。

1. 大いに進展している
2. ある程度進展している
3. どちらとも言えない
4. 殆ど進展していない
5. 全く進展していない

問4-8 生態系・生物多様性の保全・再生問題 調査対象地域：西欧、中南米、オセアニア、東欧・旧ソ連

問4-8-1 あなたは生態系・生物多様性の保全・再生問題で取り組むべき課題は何だと思えますか。重要と思われる項目を2つ選んで をつけてください。

1. 生物生息地の減少（含：森林破壊、農業用地開拓）
2. 生物種の減少
3. 外来種の混入・侵入による従来生態系の破壊
4. 人間活動による汚染物質（含：栄養素（肥料）汚染）の悪影響
5. 農水産資源の減少
6. その他（ ）

問4-8-2 前問であなたが生態系・生物多様性における問題として選んだ課題は何に最も影響を与えますか。あてはまるものを1つ選んで をつけてください。

1. 淡水資源の劣化、減少
2. 大気・水の品質の劣化
3. 地域的・局所的な異常気象の多発
4. 病害虫の異常発生
5. 種絶滅速度の加速（生物多様性の減少）
6. その他（ ）

問4 - 8 - 3 あなたは生態系・生物多様性における問題をもたらしている主な原因は何だと考えますか。あてはまるものを1つ選んで をつけてください。

1. 自然現象としての気候変動
2. 人間による無秩序な土地開発
3. 人間による化学物質の大量使用、放出
4. 人間による生物の乱獲
5. その他()

問4 - 8 - 4 あなたは生態系・生物多様性の保全・再生問題への対策の進捗状況をどのように捉えていますか。あてはまると思うものを1つ選んで をつけてください。

1. 大いに進展している
2. ある程度進展している
3. どちらとも言えない
4. 殆ど進展していない
5. 全く進展していない

問5 その他、地球環境問題に関するご意見を自由に記述して下さい。

第15回 地球環境問題と人類の存続に関するアンケート

調査報告書

発行日 2006年9月
制作・発行 財団法人 旭硝子財団
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3
サイエンスプラザ2F
TEL (03)5275-0620 FAX (03)5275-0871
制作協力 (株)アイ・アール ジャパン

* 本報告書に関するお問い合わせは
当財団(担当：鮫島、金子、山崎)
までご連絡下さい。



財団法人 旭硝子財団

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ2F

Phone 03-5275-0620 Fax 03-5275-0871

E-Mail post@af-info.or.jp

URL <http://www.af-info.or.jp>

本報告書は古紙100%の再生紙を使用しています。